No. 1270

学内広報

2003. 9. 10
東京大学広報委員会

小泉内閣総理大臣が宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設を視察

（2ページに関連記事）

目　次

一般ニュース …… 2
副学長の交代、局長の交代、総長の海外出張、小泉内閣総理大臣が宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設を視察、細田科学技術政策相が東京大学を視察、第１回産学連携シンポジウム開催される、「東京大学オープンキャンパス2003」開催される、第５回公開学術講演会を開催、人事院勧告の概要、平成16年度入学者選抜要項の交付始まる、平成16年度外国学校卒業学生募集要項の交付始まる、平成16年度大学入試センター試験受験案内の交付始まる、平成15年度第１回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される、第３回関東地区文部科学省関係機関等剣道大会東京大学教職員活躍・個人戦3連覇達成

部局ニュース …… 17
大学院法学政治学研究科で外国人留学生との懇談会開かれる、比較法政国際センター再設立記念シンポジウム・レセプションが行われる、医科学研究所「オープンキャンパス」開催される、医科学研究所で「バイオシーズマッチング会」開催される、平成15年度教職員向け産学連携に関する講習会を開催する、第28回宇宙線国際会議開催される、海洋研で「海の日」一般公開、平成15（2003）年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（夏学期）（第36期生）の修了証授与式行われる

掲示板 …… 26
第100回（平成15年・秋季）公開講座の開催決まる、第18回工学部・工学系研究科技術発表会開催のお知らせ、総合図書館備付け図書の推薦について、総合研究博物館公開講座「シーボルトの21世紀」、第12回生産技術研究所技術発表会、空間情報科学研究センター第６回シンポジウムのお知らせ、保健センター本郷支所の診療業務の一部休診について、秋季データベース定期講習会のお知らせ

事務連絡（人事異動（教官、事務官））… 33

訃報（寺澤一名誉教授）…… 35

淡青評論「予期せぬ新たな発見の芽を」… 36

≪ 一般ニュース ≫

副学長の交代

８月15日付けで、渡辺浩大学院法学政治学研究科教授が就任した。

渡辺　浩　教授
（任期：平15．８．15～平17．３．31）
昭44．６　法学部卒業
昭58．12　教授（法学部）
平12．４　大学院法学政治学研究科長・法学部長
〔所属講座〕
政治思想史
〔専門分野〕
日本政治思想史
〔研究内容（代表的な著書や論文等）〕
『東アジアの王権と思想』（東京大学出版会）
『近世日本社会と宋学』（東京大学出版会）

局長の交代

８月１日付けで、次のとおり局長の交代があった。

部局名	新　局　長	旧　局　長
事務局	上　杉　道　世	梶　野　愼　一

以下に、新局長の略歴等を紹介します。

事務局長　上杉　道世

京都大学法学部卒業
昭49．４　文部省入省
昭54．11　学際局留学生課
昭57．４　福岡県教委教職員課長
昭59．６　大学局医学教育課補佐
昭61．５　高等局技術教育課補佐
昭63．６　官房人事課副長（兼）審査班主査
平４．７　生涯局青少年教育課長
平６．７　初中局小学校課長
平８．７　高等局私学行政課長
平10．７　学際局学術課長
平11．７　文部省主任行政改革官
平12．６　科技庁長官官房審議官（科学技術政策局担当）
平13．１　内閣府大臣官房審議官（男女共同参画担当）

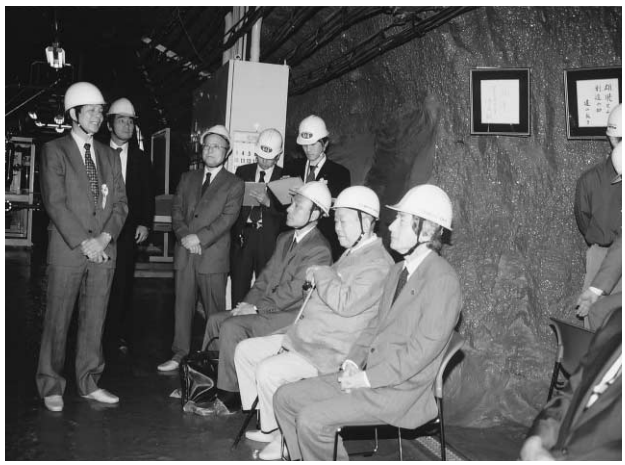
総長の海外出張

平成15年９月14日（日）～９月18日（木）
ＡＧＳ運営理事会出席のため、マサチューセッツ工科大学及びハーバード大学（米国）へ出張する。

小泉内閣総理大臣が宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設を視察

８月27日（水）10時40分から12時まで、小泉内閣総理大臣が岐阜県神岡町の宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設を訪れ、池ノ山山頂から地下1,000メートルにある大型水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置（スーパーカミオカンデ）を視察した。

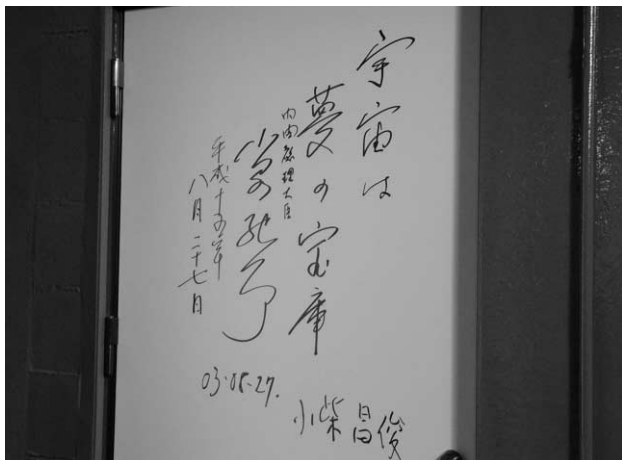
一行は、鉱山入り口で吉村宇宙線研究所長の出迎えを受け、金子衆議院議員、船坂神岡町長はじめ地元関係者が歓迎する中、坑内専用自動車に乗り換えて入坑した。坑内の研究施設では、先に入坑していた小柴名誉教授、鈴木神岡宇宙素粒子研究施設長が出迎えた。



鈴木施設長から説明を受ける小泉総理

一行は、鈴木施設長からここでの研究内容やこれまでの研究成果について詳しく説明を受け、スーパーカミオカンデ建設当時の記録ビデオを見た後、施設内を視察、研究装置最上部にある計測ホールの点検口から世界最大のニュートリノ観測装置の内部を覗いた。

その後、小泉総理は、コントロールルームで時々刻々の観測データを表示する大型画像を見学したのち、コントロールルーム出入口の扉に「宇宙は夢の宝庫」と記し、研究施設を後にした。



コントロールルーム扉のサイン

細田科学技術政策相が東京大学を視察

細田博之科学技術政策担当大臣は去る８月29日（金）午後、本郷キャンパスを訪問、佐々木総長ら幹部教職員と懇談するとともに、工学系研究科等の最先端の研究現場を視察した。

総長室にて佐々木総長らと懇談する細田大臣

研究現場では、小宮山副学長の案内で、バイオ・医工連携、ナノテク、ITなど最先端技術を熱心に視察した。

また、視察後、法人化への取り組み状況や知的財産について、小宮山副学長、桐野副学長、石川総長特任補佐、大垣工学系研究科長、上杉事務局長等と、活発なディスカッションを行った。

細田大臣の視察には、内閣府から大熊政策統括官（科学技術政策担当）、信濃大臣秘書官他１名、また、文部科学省からは、石川研究振興局長、藤原学術研究機関課長、佐々木技術移転推進室補佐が随行した。

研究の説明を受ける細田大臣（橋本研究室）

第１回産学連携シンポジウム開催される

産学連携推進室では、去る７月16日（水）17時から大講堂において「日本の知的財産戦略と大学発ベンチャー」と題して第１回産学連携シンポジウムを開催した。

このシンポジウムは、優れた研究成果の還元、新規産業の創出といった近年、大学に求められている社会からの期待や、間近に控えた大学の法人化等を踏まえ、主に学内の教職員、学生等を対象に「産学連携」に対する関心や理解を深めてもらうことを目的として開催されたものである。

シンポジウムでは、佐々木総長の開会挨拶に引き続き、内閣官房知的財産戦略推進事務局長の荒井寿光氏により「日本の知的財産戦略」についての講演が行われた。その後、石川正俊総長特任補佐・産学連携推進室長から「東京大学の産学連携」についての説明があり、最後にナノキャリア株式会社代表取締役社長の中冨一郎氏より「大学発ベンチャー～日米での経験談」と題し講演が行われた。当日は、本学教職員のほか、学生等計412名の参加があり、各講演者の説明に熱心に耳を傾けていた。

荒井寿光内閣官房知的財産戦略推進事務局長

中冨一郎ナノキャリア株式会社代表取締役社長

本シンポジウムは、今年度数回の開催を予定しており、法人化後の知的財産等の管理・運用のあり方や本学における今後の産学連携の取り組みなど、適宜タイムリーな話題を提供していくこととしている。

なお、産学連携推進室では、上記シンポジウムのほか、別途「セミナー」の開催も予定しており、特許等に関し具体的案件を持つ研究者や起業等に関心を持っている研究者を対象に、よりきめ細かいレクチャーを行っていくこととしている。

（産学連携推進室）

「東京大学オープンキャンパス2003」開催される

去る７月31日（木）本郷キャンパス、８月１日（金）駒場キャンパスにおいて、高校生など大学進学を志望する若い方々に、本学の教育研究を紹介するため、第４回「東京大学オープンキャンパス2003」を行い、全国から2,500名以上の応募が寄せられたなか、抽選により決まった1,123名（駒場471名）が当日参加した。初日午前中は大講堂（安田講堂）で岩本愛吉医科学研究所教授による「21世紀の感染症―SARSが伝えるもの－」の講演が行われ、参加者の真剣な聴講ぶりに、講演者も熱のこもった講演となった。午後には法・医・工・文・理・農・経済・教育・薬の９学部のコース、学生によるガイダンス、学生の案内による学内諸施設見学の全11コースに分かれ、本学教官・学生との交流、体験授業、教職員による実験室、研究室等での施設説明などが行われた。

岩本愛吉医科学研究所教授による講演

模擬講義を受ける参加者

２日目は駒場Ⅰ・Ⅱキャンパスにおいて、講演や研究室・施設見学等が行われ、全員が大学生活の最初の２年間を過ごす場ということもあり、熱心に見学する参加者が多く見られた。

参加者から寄せられた感想は概ね好評であり、明日を担う若い世代が、本学の教育研究活動の一端に触れ、入学試験という限られた視野だけでなく、大学に対する理解を深める機会を提供することができたものと思われる。

第５回公開学術講演会を開催

「科学の魅力を語る－生命と物質の不思議な世界－」と題した第５回東京大学公開学術講演会が、平成15年７月31日（木）18時から本郷キャンパス大講堂（安田講堂）において開催された。

講演は、昨年度猿橋賞を受賞した真行寺千佳子理学系研究科助教授による「生命を支えるモーター－精子の運動の謎を解く－」と、本年度紫綬褒章を受章した福山秀敏物性研究所教授による「物質科学への招待」のテーマで行われた。

真行寺千佳子理学系研究科助教授

福山秀敏物性研究所教授

高校生から中高年まで幅広い年齢層の約460名の参加者があり、各講演を熱心に聴講し、好評であった。

次回の公開学術講演会は来冬に開催する予定である。

公開学術講演会会場の様子

人事院勧告の概要

８月８日、人事院は、国会及び内閣に対し、一般職の職員の給与について報告及び勧告を行った。
その主な内容は、次のとおりである。

１．官民給与の較差（月例給）
〈較差〉　△4,054円　　（△1.07%）
〈内訳〉　俸給　△3,459円　　扶養手当　△209円
　　住居手当　△173円　　はね返り分　△213円

２．本年の給与改定の考え方

人事院は、本年の給与勧告に当たって、引き続く厳しい経済・雇用情勢等を踏まえ、民間事業所を対象に、給与の抑制措置の状況や、雇用調整の実施状況等について詳細に調査を行った結果、民間企業においては、依然として人員の縮小、経費の縮減、残業の抑制等の様々な取組を行いつつ、給与についても、多数の事業所において、ベースアップの中止やベースダウン、定期昇給の停止、賃金カットなどの抑制措置を行っていることが明らかとなった。

官民給与の比較の結果、このような厳しい情勢を反映して公務員給与（行政職）が民間給与を1人当たり平均4,054円（1.07％）上回っていること及び民間の特別給（ボーナス）の年間支給割合は4.38月分であり、公務員の特別給（期末手当・勤勉手当）の平均支給月数4.65月分が民間の特別給の支給割合を0.27月分上回っていることが判明した。

人事院としては、本年の官民較差の大きさ等を考慮し、これに見合うよう月例給の引下げ改定を行うことが適切であると判断した。月例給の改定については、基本的な給与である俸給月額の引下げ改定を行うとともに、民間における手当の支給実態等にかんがみ、配偶者に係る扶養手当を引き下げ、自宅に係る住居手当について新築・購入から5年間支給するものに限ることとした。

また、特別給の支給月数についても、0.25月分引き下げることとした。

３．給与改定の内容

①　俸給表

〔行政職俸給表〕

すべての級のすべての俸給月額について、引下げ改定を行う。各俸給月額について級ごとに同率の引下げとすることを基本とし、具体的には、民間の初任給や管理職給与の動向等を考慮して、初任給付近については引下げ率を緩和するとともに、管理職層については平均をやや超える引下げ率とした。

行政職俸給表（一）の初任給

試　　験	級号俸	俸　給　月　額	改定率
Ⅰ種（大学卒）	３級１号俸	179,800円（現行　180,900円）	△0.6%
Ⅱ種（大学卒）	２級２号俸	170,700円（現行　171,500円）	△0.5%
Ⅲ種（高校卒）	１級３号俸	138,800円（現行　139,500円）	△0.5%

行政職俸給表（一）の級別平均改定率

級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
平均改定率(%)	△0.5	△0.7	△0.9	△1.1	△1.1	△1.1	△1.1	△1.1	△1.2	△1.2	△1.2	△1.1

なお、再任用職員の俸給月額についても、これに準じた改定とした。

〔行政職以外の俸給表〕

行政職以外の俸給表についても、行政職俸給表との均衡を基本に改定を行い、指定職俸給表については、行政職俸給表の管理職層と同程度の改定を行うこととした。

②　扶養手当

民間における家族手当の支給状況、子を扶養する職員の家計負担の実情を考慮して、配偶者に係る支給月額を引き下げた。

月額　13,500円　（現行　14,000円）

③　住居手当

自宅に係る住居手当は、制定以来支給額の改定が行われておらず、公務部内でその趣旨が必ずしも定着してこなかったこと、民間の住宅手当の支給理由をみても公務と同様の趣旨で住宅手当を支給する事業所は少数であることから、基本的には廃止の方向で対処することが適当だが、新築・購入後5年に限り支給される月額2,500円の手当については、財形持家個人融資における取扱いを考慮して当面存置することとした。

新築・購入住宅に係るもの（住宅取得後５年間）	改定なし（現行　2,500円）
上記以外	廃止　　（現行　1,000円）

④　通勤手当

交通機関等利用者に係る通勤手当については、従来、１箇月定期券の価額を基礎として手当額を決めてきたが、民間における支給状況等を考慮して、低廉な定期券の価額により一括支給するよう改めることとした。また、従来の最高支給限度額に対応する運賃等相当額（55,000円）まで全額支給することとし、２分の１加算措置を廃止することとした。

交通用具使用者に係る通勤手当については、民間の支給状況等を勘案して片道40ｋｍ以上の使用距離区分を４段階増設した。

使用距離（片道）	40km以上45km未満	20,900円
〃	45km以上50km未満	21,800円
〃	50km以上55km未満	22,700円
〃	55km以上60km未満	23,600円
〃	60km以上	24,500円

←

現行
使用距離（片道）
40km以上20,900円

⑤　調整手当

調整手当の異動保障の運用に関して、いわゆる「ワンタッチ受給」を防止するため、調整手当支給地域に6箇月を超えて在勤したことを法律上の要件とするとともに、激変緩和という制度の趣旨を徹底させるため、異動保障の支給期間を現行の３年間から２年間に短縮し、２年目の支給割合を現行の支給割合の100分の80とした。

⑥　期末手当・勤勉手当等

本年４月までの１年間における民間の特別給の支給割合との均衡を図るため、年間支給月数を0.25月分引き下げ、4.4月分とした。

本年度は、12月期の期末手当から差し引くこととし、平成16年度以降は、民間のボーナスの支給状況等を参考に、6月期及び12月期の支給月数を定めることとした。

また、指定職俸給表適用職員の期末特別手当、再任用職員の期末手当についても同様に支給月数を引き下げ、期別の再配分を行うこととした。

［一般職員］

年　間		4.4月（現行　4.65月）	
支給期		期末手当	勤勉手当
15年度	６月期	1.55月（支給済み）	0.7月（支給済み）
	12月期	1.45月（現行1.7月）	0.7月（改定なし）
16年度	６月期	1.4月	0.7月
	12月期	1.6月	0.7月

⑦　その他

ア　初任給調整手当

医師に対する初任給調整手当を次のとおり引き下げた。

医師・歯科医師	最高支給額（離島・へき地等）	月額 307,900円（現行 311,400円）
医系教官等	最高支給額	月額　50,200円（現行　50,800円）

イ　委員、顧問、参与等の手当

指定職俸給表の改定状況等を踏まえ、支給限度額を次のとおり引き下げた。

日額　37,900円　（現行　38,400円）

4．改定の実施時期

本年の給与改定は、公務員の給与水準を引き下げる内容の改定であるため、この改定を実施するための法律の規定は、公布日の属する月の翌月の初日（公布日が月の初日であるときは、その日）から施行することとした。ただし、通勤手当及び調整手当の改定については、平成16年４月１日から施行することとした。

一方、官民給与は４月時点で比較し均衡を図ることとしており、遡及改定を行わない場合であっても、４月からこの改定の実施の日の前日までの期間に係る官民較差相当分を解消することが情勢適応の原則にかなうものであるという観点から所要の調整を行うこととした。

具体的には、本年12月期の期末手当の額において、職員が本年４月に受けた官民比較の基礎となる給与種目の給与額の合計額（管理職等については、俸給の特別調整額を含めた額）に較差の率（△1.07％）を乗じて得た額に、本年4月からこの改定の実施の日の属する月の前月までの月数を乗じて得た額と、本年６月期の特別給に較差の率を乗じて得た額を合算した額を基にして調整することとした。

○　Ａ＋Ｂを12月期の期末手当で調整

○　４月分の官民比較の基礎となる給与種目の合計額×較差の率△1.07％×
４月から施行日の属する月の前月までの月数＝Ａ

（４月分の官民比較の基礎となる給与種目の合計額＝俸給＋俸給の特別調整額＋初任給調整手当＋扶養手当＋調整手当＋研究員調整手当＋住居手当＋通勤手当＋単身赴任手当（基礎額）＋特地勤務手当等＋暫定筑波研究学園都市移転手当＋教職調整額）

○　６月期の期末手当・勤勉手当支給額×較差の率△1.07％＝Ｂ

また、俸給表の切替えに伴う調整措置としては、改定後の俸給表適用の日前に職務の級に異動があった職員等の号俸等について逆転防止のために必要な調整を行うこととした。

5．給与例

この勧告が実施されると、職員（行政職）の平均で、勧告前の年間給与631万６千円が勧告後では615万３千円となり、約16万３千円（2.6％）減となる。

主な職務段階の給与例は次のとおり。

（単位：円）

			勧告前		勧告後		年間給与の減少額
			月額	年間給与	月額	年間給与	
係員	25歳	独身	185,600	3,090,000	184,400	3,024,000	△66,000
	30歳	配偶者	237,300	3,931,000	234,600	3,829,000	△102,000
係長	35歳	配偶者、子１	319,700	5,365,000	315,900	5,219,000	△146,000
	40歳	配偶者、子２	358,200	6,005,000	354,000	5,842,000	△163,000
地方機関課長	50歳	配偶者、子２	479,360	7,938,000	473,910	7,729,000	△209,000
本府省課長	45歳	配偶者、子２	669,060	11,500,000	660,940	11,174,000	△326,000
本府省局長	－	－	1,123,360	19,076,000	1,109,920	18,532,000	△544,000
事務次官	－	－	1,475,040	25,048,000	1,457,120	24,329,000	△719,000

行政職俸給表

行政職俸給表(一)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	11級
		俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	—	184,400	218,200	235,700	256,300	275,600	296,800	330,300	367,900	416,000
	2	134,400	170,700	191,400	226,200	244,600	265,200	284,800	306,800	342,300	380,000	430,200
	3	138,800	177,400	198,600	234,600	253,700	274,200	294,300	316,900	354,200	392,200	444,500
	4	143,300	184,400	205,700	243,500	262,300	283,300	304,100	327,200	366,000	404,400	458,800
	5	148,500	190,200	213,300	252,500	270,800	292,400	313,800	337,600	377,600	416,700	472,700
	6	154,300	195,500	221,100	260,900	279,400	301,600	323,700	348,000	389,000	428,700	486,700
	7	160,200	200,700	229,000	269,300	288,000	310,900	333,600	357,800	400,500	440,500	500,500
	8	166,500	205,800	236,400	277,600	296,400	320,200	343,300	367,300	412,100	451,700	514,400
	9	171,100	210,700	242,800	285,700	304,800	329,500	352,700	376,700	423,500	462,800	528,200
	10	174,600	215,100	249,200	293,600	313,100	338,700	361,900	386,000	434,300	473,400	542,000
	11	177,600	219,500	255,400	301,300	321,100	348,000	370,900	395,300	444,000	482,900	553,100
	12	180,300	223,700	260,900	308,600	328,500	357,200	379,600	404,600	453,400	491,600	560,200
	13	182,800	228,000	266,400	315,600	335,900	366,100	388,000	413,200	461,100	499,000	567,100
	14	184,800	231,200	271,400	322,400	343,100	374,800	395,000	421,100	467,500	505,900	573,100
	15	186,800	234,100	276,500	328,400	348,600	382,300	400,500	426,900	474,000	510,300	577,700
	16	188,400	237,200	281,000	334,000	353,300	387,800	405,200	432,500	478,500		
	17		240,100	285,000	337,600	357,300	392,800	409,400	436,300	482,800		
	18		243,000	288,700	340,900	360,600	396,200	412,900	440,000	486,900		
	19		244,800	291,900	344,000	363,400	399,700	416,600	443,900			
	20			294,200	346,300	366,300	403,100	420,100	447,500			
	21			296,100	348,500	368,800	406,500	423,600	451,100			
	22			298,100	350,800	371,300	409,900	427,100				
	23			300,000	353,000	373,800	413,300					
	24			302,000	355,200	376,400	416,700					
	25			303,900	357,600	379,000						
	26			305,700	359,800	381,600						
	27			307,600	362,100							
	28			309,600	364,300							
	29			311,500								
	30			313,400								
	31			315,300								
	32			317,100								
再任用職員		150,100	187,400	215,300	251,700	269,000	292,800	309,700	331,300	365,800	400,400	453,100

備考(一)　この表は、他の俸給表の適用を受けないすべての職員に適用する。ただし、第二十二条及び附則第三項に規定する職員を除く。

(二)　3級の1号俸を受ける職員のうち、新たにこの表の適用を受けることとなった職員で人事院規則で定めるものの俸給月額は、この表の額にかかわらず、179,800円とする。

行政職俸給表(二)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級	2級	3級	4級	5級	6級
		俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
		円	円	円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	165,000	183,700	201,200	226,300	254,600
	2	120,600	171,800	189,600	207,200	233,200	261,900
	3	124,300	177,700	195,400	213,400	240,100	269,200
	4	128,100	183,700	201,100	220,000	247,200	277,200
	5	131,900	189,000	207,100	226,200	253,900	285,200
	6	136,000	193,900	213,300	232,900	260,700	293,500
	7	140,700	198,900	219,900	239,100	267,300	301,900
	8	145,500	204,200	225,700	244,900	273,500	310,000
	9	151,500	209,400	231,800	250,600	279,200	318,000
	10	157,500	214,500	237,600	256,400	284,600	325,500
	11	164,700	219,900	243,100	261,700	290,100	333,000
	12	171,400	224,900	248,700	266,800	295,400	340,000
	13	177,200	229,700	253,800	271,800	300,700	347,000
	14	182,700	234,500	258,900	276,700	305,600	353,100
	15	187,400	239,300	263,700	281,400	310,200	359,200
	16	191,800	243,400	268,200	286,100	314,800	365,100
	17	196,200	247,400	272,900	290,100	319,000	370,700
	18	200,000	251,200	277,500	293,600	323,300	376,000
	19	203,600	254,400	281,800	296,800	327,300	380,900
	20	206,500	256,700	285,400	299,700	331,000	385,400
	21	209,500	258,800	288,000	302,500	334,400	389,800
	22	212,300	260,700	290,300	305,100	337,500	394,000
	23	215,200	262,000	292,600	307,800	339,900	397,200
	24	217,900	263,400	294,600	310,200	342,400	
	25	220,200	265,000	296,600	312,600	344,600	
	26	222,300	266,700	298,500	314,700	347,000	
	27	224,400	268,300	300,300	316,800	349,200	
	28	226,600	270,000	302,200	318,700		
	29	228,500	271,500	304,000	320,900		
	30	230,500	273,100	305,900	323,100		
	31	232,400	274,700	307,700	325,100		
	32	234,000	276,400				
	33		277,900				
再任用職員		193,300	204,800	212,100	228,500	253,800	286,800

備考　この表は、機器の運転操作、庁舎の監視その他の庁務及びこれらに準ずる業務に従事する職員で人事院規則で定めるものに適用する。

海事職俸給表

海事職俸給表(一)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級 俸給月額	2級 俸給月額	3級 俸給月額	4級 俸給月額	5級 俸給月額	6級 俸給月額	7級 俸給月額
		円	円	円	円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	—	250,400	300,700	328,400	365,600	449,100
	2	161,400	214,300	259,100	314,100	339,600	378,800	461,600
	3	170,700	222,700	268,100	327,000	350,800	392,000	474,000
	4	180,200	231,200	278,100	338,000	362,000	408,700	486,300
	5	189,900	238,900	291,600	349,100	373,100	425,800	498,200
	6	200,100	246,500	304,900	360,200	383,900	442,500	509,700
	7	210,700	253,900	317,600	371,200	397,700	454,400	521,000
	8	217,100	260,800	326,000	382,000	411,300	465,900	531,000
	9	223,200	268,400	334,400	392,700	424,500	476,600	540,100
	10	227,700	275,600	342,700	403,300	433,700	487,200	546,900
	11	231,300	282,600	350,500	413,800	442,400	497,300	553,700
	12	235,100	288,700	358,000	422,200	450,700	505,700	560,100
	13	238,700	294,400	365,300	429,000	458,700	512,700	566,200
	14	242,500	300,100	372,200	435,800	465,200	518,500	571,800
	15	245,700	304,600	379,000	442,400	470,100	524,000	576,200
	16	248,900	309,100	385,300	446,700	474,100	528,800	
	17	252,100	313,300	391,200	449,800	477,900	532,700	
	18	255,200	316,300	394,100	453,100	481,600	536,500	
	19	257,000	319,200	397,000	456,500	485,400	540,300	
	20			399,600	459,800	489,100	544,200	
	21			402,500	463,200	492,700		
	22			405,200	466,700	496,300		
	23			408,100	470,000	500,000		
	24			410,900	473,300			
	25			413,800	476,800			
	26			416,900				
	27			419,800				
再任用職員		220,300	250,600	289,100	341,000	367,100	405,800	476,300

備考　この表は、遠洋区域又は近海区域を航行区域とする船舶その他人事院の指定する船舶に乗り組む船長、航海士、機関長、機関士等で人事院規則で定めるものに適用する。

海事職俸給表(二)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級 俸給月額	2級 俸給月額	3級 俸給月額	4級 俸給月額	5級 俸給月額	6級 俸給月額
		円	円	円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	—	203,000	229,400	260,200	292,600
	2	136,800	172,000	209,800	236,600	268,300	300,700
	3	140,800	179,800	216,000	243,900	276,800	308,700
	4	145,800	188,500	222,600	252,200	284,700	316,800
	5	151,600	196,000	229,400	260,000	291,600	325,000
	6	157,500	202,500	236,600	267,800	298,300	333,600
	7	164,300	208,900	243,900	275,800	304,700	342,000
	8	171,800	214,300	252,200	282,300	311,200	350,000
	9	178,800	220,200	259,900	288,700	317,100	357,700
	10	187,000	226,200	267,700	295,100	323,000	365,400
	11	194,500	232,400	275,100	301,100	328,800	373,200
	12	200,800	238,700	281,500	306,700	334,300	380,500
	13	207,100	244,600	287,700	311,800	340,000	387,800
	14	212,400	250,600	293,800	316,800	345,100	394,600
	15	217,300	256,700	299,400	321,200	349,800	400,900
	16	222,300	262,500	304,700	325,300	354,500	406,700
	17	227,100	268,000	309,100	328,900	358,600	412,500
	18	231,800	273,500	313,400	332,200	362,300	418,100
	19	236,700	278,800	317,600	335,600	365,300	423,600
	20	240,800	283,400	321,200	338,500	368,100	428,600
	21	243,800	287,200	323,800	341,400	371,000	433,200
	22	246,700	289,900	326,300	343,600	373,700	437,500
	23	248,600	292,400	328,800	345,800	376,600	441,000
	24		294,800	330,900	347,800	379,400	
	25		296,700	332,900	350,000	382,100	
	26		298,100	334,900	352,100	385,000	
	27		299,500	336,700	354,300	387,700	
	28		301,200	338,600	356,600		
	29		302,800	340,500	358,800		
	30			342,300			
	31			344,100			
再任用職員		215,100	229,700	235,700	258,400	288,700	325,900

備考　この表は、船舶に乗り組む職員（海事職俸給表(一)の適用を受ける者を除く。）で人事院規則で定めるものに適用する。

教育職俸給表

教育職俸給表(一)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級 俸給月額	2級 俸給月額	3級 俸給月額	4級 俸給月額	5級 俸給月額
		円	円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	—	252,700	285,600	365,900
	2	160,800	202,800	265,600	300,500	381,000
	3	168,700	211,600	278,300	315,700	393,400
	4	178,800	220,500	292,000	330,600	405,600
	5	189,600	230,000	305,900	345,800	417,600
	6	197,300	239,400	319,600	360,700	429,300
	7	204,600	251,900	332,800	375,700	440,800
	8	212,300	264,200	346,200	386,600	452,300
	9	220,600	276,600	359,100	397,000	463,500
	10	229,900	288,000	368,900	406,600	474,700
	11	237,500	300,000	378,900	415,600	486,100
	12	246,100	311,800	388,400	424,200	497,300
	13	254,000	319,700	397,100	432,600	508,500
	14	261,900	326,600	405,500	440,200	519,700
	15	269,300	333,200	413,100	447,600	530,000
	16	276,500	339,700	420,500	454,700	539,200
	17	283,200	346,200	427,600	460,900	548,300
	18	289,600	352,000	434,700	466,500	557,200
	19	295,900	357,700	440,500	472,000	566,100
	20	301,900	363,300	445,400	477,400	574,300
	21	307,600	368,800	449,800	482,700	580,600
	22	312,500	374,300	452,900	487,900	585,600
	23	317,000	378,900	456,000	493,000	590,200
	24	321,400	382,800	458,900	497,000	
	25	324,900	385,700	462,000	500,300	
	26	328,000	388,400	465,000	503,600	
	27	331,000	391,300	468,100		
	28	333,700	394,000	471,100		
	29	335,900	396,800			
	30	337,900	399,400			
	31	340,000	402,200			
	32	342,000	405,000			
	33	344,000	407,900			
	34	346,000	410,700			
	35	348,000				
	36	350,100				
	37	352,200				
	38	354,400				
再任用職員		239,500	288,100	304,100	336,400	417,800

備考　この表は、大学及びこれに準ずるもので人事院の指定するものに勤務する教授、助教授、講師、助手その他の職員で人事院規則で定めるものに適用する。

教育職俸給表(二)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級 俸給月額	2級 俸給月額	3級 俸給月額	4級 俸給月額
		円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	—	311,100	404,900
	2	147,400	191,100	324,600	414,900
	3	153,600	198,000	337,800	424,300
	4	160,800	205,000	347,900	433,700
	5	168,700	212,400	358,000	443,100
	6	177,700	220,300	368,300	452,000
	7	187,700	231,300	378,200	460,800
	8	194,300	242,800	387,700	469,200
	9	201,000	254,400	397,200	478,200
	10	207,700	266,700	406,100	487,100
	11	214,800	279,400	414,900	497,000
	12	222,100	292,500	423,500	506,100
	13	230,300	306,100	431,700	514,500
	14	238,000	319,500	439,400	521,800
	15	245,900	332,100	446,800	526,200
	16	253,800	342,000	454,200	
	17	261,600	351,900	462,200	
	18	269,300	361,900	470,200	
	19	276,900	371,300	478,100	
	20	283,700	380,600	485,900	
	21	290,300	389,500	493,700	
	22	296,400	397,400	500,500	
	23	302,400	404,500	504,500	
	24	308,300	411,700		
	25	314,100	418,400		
	26	319,900	424,700		
	27	325,300	430,100		
	28	330,700	435,300		
	29	335,700	440,100		
	30	339,400	444,400		
	31	342,400	448,700		
	32	345,200	452,900		
	33	348,000	455,700		
	34	350,000			
	35	352,000			
	36	353,800			
	37	355,500			
	38	357,200			
	39	359,400			
	40	361,400			
再任用職員		238,500	283,700	355,000	431,000

備考(一)　この表は、高等学校及びこれに準ずるもので人事院の指定するものに勤務する校長、教頭、教諭、養護教諭、助教諭、実習助手その他の職員で人事院規則で定めるものに適用する。

(二)　この表の適用を受ける職員のうち、その職務の級が3級である職員で人事院規則で定めるものの俸給月額は、この表の額に8,200円をそれぞれ加算した額とする。

医療職俸給表

医療職俸給表(二)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級 俸給月額	2級 俸給月額	3級 俸給月額	4級 俸給月額	5級 俸給月額	6級 俸給月額	7級 俸給月額	8級 俸給月額
		円	円	円	円	円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	—	205,400	228,600	265,200	306,800	342,100	405,600
	2	139,000	176,600	212,500	236,800	274,600	316,900	353,600	417,600
	3	144,500	183,000	219,700	245,200	284,000	326,900	365,300	429,600
	4	151,300	189,400	227,400	253,700	293,500	336,900	376,900	441,600
	5	157,900	196,100	235,500	262,200	303,200	346,900	388,200	453,500
	6	165,500	202,600	243,700	270,600	312,800	356,500	399,700	465,400
	7	173,100	209,200	252,100	279,200	322,600	366,000	411,400	477,200
	8	179,300	215,600	260,400	287,900	332,100	375,500	423,000	489,300
	9	185,400	222,400	268,700	296,600	341,500	385,000	434,200	501,700
	10	190,700	229,700	277,000	305,300	350,700	394,500	444,200	514,200
	11	196,100	236,600	285,200	313,800	359,800	404,000	453,700	521,800
	12	201,300	243,300	293,200	322,100	368,200	412,600	461,600	528,900
	13	206,200	249,800	301,100	329,800	376,800	420,700	467,900	535,500
	14	211,000	256,200	308,800	337,400	384,500	426,700	474,300	542,100
	15	215,400	261,700	316,100	344,600	390,600	432,400	480,900	547,400
	16	219,800	267,100	323,100	350,400	396,300	436,300	485,000	551,700
	17	223,900	272,100	329,500	355,400	400,900	440,000	489,100	
	18	228,100	277,200	335,500	360,000	405,400	443,900		
	19	231,500	281,600	339,400	363,400	409,200	447,500		
	20	234,400	286,000	343,400	366,900	412,600	451,100		
	21	237,400	289,200	346,800	370,100	416,100			
	22	239,700	291,700	349,500	372,900	419,500			
	23	241,400	294,000	352,100	375,700	422,900			
	24		295,700	354,400	378,000				
	25		297,500	356,700	380,400				
	26		299,200	358,700	382,900				
	27		301,100	360,800	385,500				
	28		302,800	362,900					
	29			365,100					
	30			367,300					
再任用職員		188,400	215,500	253,400	270,700	301,000	338,800	374,300	438,100

備考　この表は、病院、療養所、診療所等に勤務する薬剤師、栄養士その他の職員で人事院規則で定めるものに適用する。

医療職俸給表(三)

職員の区分	職務の級 / 号俸	1級 俸給月額	2級 俸給月額	3級 俸給月額	4級 俸給月額	5級 俸給月額	6級 俸給月額	7級 俸給月額
		円	円	円	円	円	円	円
再任用職員以外の職員	1	—	—	220,900	243,200	274,400	310,800	343,100
	2	152,000	178,900	227,800	250,400	282,800	320,200	354,600
	3	157,600	187,300	235,600	257,700	291,300	330,200	366,200
	4	163,400	196,600	242,800	265,200	299,700	340,400	377,700
	5	169,600	202,300	250,000	272,700	308,300	350,500	389,300
	6	177,800	208,200	257,300	280,400	316,900	360,200	401,200
	7	186,200	214,100	264,600	288,100	325,200	369,700	413,300
	8	194,900	220,700	271,900	296,000	333,500	379,100	424,600
	9	200,000	227,600	279,200	303,900	341,100	388,800	435,700
	10	205,300	235,300	286,800	311,900	348,600	398,600	446,200
	11	210,600	242,500	294,300	319,600	356,100	408,500	456,500
	12	216,000	249,700	301,900	327,100	363,400	417,700	465,500
	13	221,600	257,000	309,200	334,200	370,900	426,100	473,300
	14	227,400	264,300	316,200	341,100	378,200	434,700	481,000
	15	233,300	271,500	323,100	347,900	385,700	443,000	488,700
	16	239,000	278,700	329,500	354,400	392,700	450,700	495,700
	17	244,600	286,000	335,800	360,700	399,300	458,400	500,400
	18	250,100	293,100	341,700	366,900	405,200	466,100	504,600
	19	255,900	300,000	347,600	372,900	409,900	473,000	508,400
	20	261,300	306,900	353,400	378,400	414,000	477,600	
	21	266,300	313,700	359,100	383,700	418,200	481,600	
	22	271,300	319,800	364,600	388,600	422,000	485,100	
	23	275,500	325,600	369,700	392,500	425,300		
	24	279,900	331,400	374,600	395,800	427,800		
	25	283,900	336,800	378,600	398,900			
	26	288,000	340,700	381,900	402,200			
	27	291,500	344,000	384,900	405,100			
	28	294,600	347,000	387,700	407,500			
	29	297,100	349,700	390,500				
	30	299,200	351,800	393,200				
	31	301,000	353,800	395,500				
	32	302,900	355,700					
	33	304,800	357,600					
	34	306,700	359,700					
	35	308,600	361,800					
	36	310,500	364,000					
	37	312,300	366,300					
	38	314,400	368,500					
	39	316,300						
	40	318,400						
	41	320,200						
再任用職員		235,200	267,900	274,900	286,200	309,000	350,100	380,500

備考　この表は、病院、療養所、診療所等に勤務する保健師、助産師、看護師、准看護師その他の職員で人事院規則で定めるものに適用する。

指定職俸給表

号俸	俸給月額
	円
1	573,000
2	636,000
3	704,000
4	783,000
5	843,000
6	906,000
7	991,000
8	1,069,000
9	1,146,000
10	1,227,000
11	1,301,000
12	1,328,000

備考　この表は、事務次官、外局の長、大学の学長、試験所又は研究所の長、病院又は療養所の長その他の官職を占める職員で人事院規則で定めるものに適用する。

2003. 9. 10 No.1270

平成16年度入学者選抜要項の交付始まる

「平成16年度東京大学入学者選抜要項」が決定し、各都道府県教育委員会等に通知するとともに8月1日（金）から各学部事務部窓口で交付を開始した。

入学者選抜の実施教科・科目等は別表1・2のとおりである。

（入試課）

別表1

平成１６年度　東京大学入学者選抜の実施教科・科目等について（文科各類）

学部・学科等名及び入学定員等（平成15年度）志願倍率	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 注1 教科	科目名等	個別学力検査等（第2次学力試験） 注2 教科等	科目名等	2段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 注3 試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	論文Ⅰ	論文Ⅱ	配点合計	特別の選抜方法等	その他
文科一類 4．7 605人 前期 544 後期 61 その他 若干	前期 2月25・26日	国 地歴 公民 数 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、工、簿、情報から1 物B、化B、生B、地学Bから1 英、独、仏、中、韓から1 ［5教科6科目］	国 数 地歴 外	国Ⅰ、現文、古Ⅰ 数Ⅰ、数Ⅱ、数A（数と式、数列）、数B（ベクトル、複素数と複素数平面） 日B、世B、地理Bから2 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。	約3.0倍	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200			800	帰国子女 外国人 追加合格	
							個別学力検査	120	120		80		120			440		
	後期 3月13日	国 地歴 公民 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 英、独、仏、中、韓から1 ［4教科4科目］	その他	論文Ⅰ 論文Ⅱ	約5.0倍	センター試験	200	100	100			200			600		
							個別学力検査							200	200	400		
文科二類 4．8 365人 前期 327 後期 38 その他 若干	前期 2月25・26日	国 地歴 公民 数 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、工、簿、情報から1 物B、化B、生B、地学Bから1 英、独、仏、中、韓から1 ［5教科6科目］	国 数 地歴 外	国Ⅰ、現文、古Ⅰ 数Ⅰ、数Ⅱ、数A（数と式、数列）、数B（ベクトル、複素数と複素数平面） 日B、世B、地理Bから2 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。	約3.0倍	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200			800	帰国子女 外国人 追加合格	
							個別学力検査	120	120		80		120			440		
	後期 3月13日	数 公民 外	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、工、簿、情報から1 現社、倫、政経から1 英、独、仏、中、韓から1 ［3教科4科目］	その他	論文Ⅰ 論文Ⅱ	約5.0倍	センター試験			100	200		200			500		
							個別学力検査							200	200	400		
文科三類 5．0 485人 前期 432 後期 53 その他 若干	前期 2月25・26日	国 地歴 公民 数 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、工、簿、情報から1 物B、化B、生B、地学Bから1 英、独、仏、中、韓から1 ［5教科6科目］	国 数 地歴 外	国Ⅰ、現文、古Ⅰ 数Ⅰ、数Ⅱ、数A（数と式、数列）、数B（ベクトル、複素数と複素数平面） 日B、世B、地理Bから2 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。	約3.0倍	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200			800	帰国子女 外国人 追加合格	
							個別学力検査	120	120		80		120			440		
	後期 3月13日	国 地歴 数 公民 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 数Ⅰ・数A 現社、倫、政経から1 英、独、仏、中、韓から1 ［4教科4科目］	その他	論文Ⅰ 論文Ⅱ	約5.0倍	センター試験	200	＊100	100	＊100		200			600		
							個別学力検査							200	200	400		

注1　【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

（1）　工業数理、簿記、情報関係基礎を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者だけである。

（2）　理科、地理歴史又は公民、地理歴史又は数学の選択科目は、本学の個別学力検査の出願の際にその科目を届け出ること。

注2　【個別学力検査等】欄

（1）　前期日程の英語試験の一部分に聞き取り試験を行う。（30分程度）

（2）　論文Ⅰ：外国語読解を主とし、思考力・表現力を見る。（外国語は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうちから、一つを試験場において選択することができる。）

（3）　論文Ⅱ（文Ⅰ、文Ⅱ）：文化、社会に関する問題について論述させ、理解力・思考力・表現力を見る。

（4）　論文Ⅱ（文Ⅲ）：人類の思想、歴史、言語、行動、教育及び文化全般に関する諸学をめぐって、入学後それらを意欲的に学習・研究するための基礎を問う。理解力・表現力・思考力を見るが、特に正確な知識に裏付けられた独創性を評価する。

（5）　論文Ⅰは、文科各類に共通の問題

（6）　論文Ⅱは、文科各類ごとに別の問題

注3　【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

（1）　前期日程：学力試験の成績の判定は、大学入試センター試験の成績（総得点）と個別学力検査の成績（総得点）とを総合して行う。この比率は、大学入試センター試験の成績を「1」、個別学力検査の成績を「4」とする。

（2）　後期日程：合格者の判定は、個別学力検査の結果に基づいて行う。ただし、判定に必要のある場合は、大学入試センター試験の成績や調査書を考慮することがある。

（3）　配点に＊印を付してある教科は、選択教科を表す。

別表２

平成１６年度　東京大学入学者選抜の実施教科・科目等について（理科各類）

学部・学科等名及び入学定員等（平成15年度志願倍率）	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 注1 教科	科目名等	個別学力検査等（第２次学力試験） 注2 教科等	科目名等	２段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合科目	面接	配点合計	特別の選抜方法等	その他
理科一類 ４．４ １，１４７人 前期１，０２５ 後期　１２２ その他　若干	前期 ２月２５・２６日	国 地歴 公民 数 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世Ａ、世Ｂ、日Ａ、日Ｂ、地理Ａ、地理Ｂ　から１ 現社、倫、政経 数Ⅰ・数Ａ 数Ⅱ・数Ｂ、工、簿、情報から１ 物Ｂ、化Ｂ、生Ｂ、地学Ｂから１ 英、独、仏、中、韓から１ ［５教科６科目］	国 数 理 外	国Ⅰ、国Ⅱ 数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Ａ（数と式、数列）、数Ｂ（ベクトル、複素数と複素数平面）、数Ｃ（行列と線形計算、いろいろな曲線） 物Ｂ・物Ⅱ、化Ｂ・化Ⅱ、生Ｂ・生Ⅱ、地学Ｂ・地学Ⅱから２ 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から１ ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。	約 2.5 倍	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200			800	帰国子女 外国人 追加合格	
							個別学力検査	80			120	120	120			440		
	後期 ３月１３・１４日	数 理 外	数Ⅰ・数Ａ 数Ⅱ・数Ｂ、工、簿、情報から１ 物Ｂ、化Ｂ、生Ｂ、地学Ｂから１ 英、独、仏、中、韓から１ ［３教科４科目］	その他 数・理	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ 数〔数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Ａ（数と式、数列）、数Ｂ（ベクトル、複素数と複素数平面）、数Ｃ（行列と線形計算、いろいろな曲線）〕、物Ｂ・物Ⅱ、化Ｂ・化Ⅱ、地学Ｂ・地学Ⅱから１	約 5.0 倍	センター試験				200	100	200			500		
							個別学力検査				300			Ⅰ：100 Ⅱ：100		500		
理科二類 ４．７ ５５１人 前期　４９２ 後期　５９ その他　若干	前期 ２月２５・２６日	国 地歴 公民 数 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世Ａ、世Ｂ、日Ａ、日Ｂ、地理Ａ、地理Ｂ　から１ 現社、倫、政経 数Ⅰ・数Ａ 数Ⅱ・数Ｂ、工、簿、情報から１ 物Ｂ、化Ｂ、生Ｂ、地学Ｂから１ 英、独、仏、中、韓から１ ［５教科６科目］	国 数 理 外	国Ⅰ、国Ⅱ 数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Ａ（数と式、数列）、数Ｂ（ベクトル、複素数と複素数平面）、数Ｃ（行列と線形計算、いろいろな曲線） 物Ｂ・物Ⅱ、化Ｂ・化Ⅱ、生Ｂ・生Ⅱ、地学Ｂ・地学Ⅱから２ 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から１ ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。	約 3.5 倍	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200			800	帰国子女 外国人 追加合格	
							個別学力検査	80			120	120	120			440		
	後期 ３月１３・１４日	数 理 外	数Ⅰ・数Ａ 数Ⅱ・数Ｂ、工、簿、情報から１ 物Ｂ、化Ｂ、生Ｂ、地学Ｂから１ 英、独、仏、中、韓から１ ［３教科４科目］	その他 理	総合科目Ⅰ 化Ｂ・化Ⅱ 生Ｂ・生Ⅱ	約 5.0 倍	センター試験				200	100	200			500		
							個別学力検査					化学:150 生物:150		100		400		
理科三類 ６．１ ９０人 前期　８０ 後期　１０ その他　若干	前期 ２月２５・２６・２７日	国 地歴 公民 数 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世Ａ、世Ｂ、日Ａ、日Ｂ、地理Ａ、地理Ｂ　から１ 現社、倫、政経 数Ⅰ・数Ａ 数Ⅱ・数Ｂ、工、簿、情報から１ 物Ｂ、化Ｂ、生Ｂ、地学Ｂから１ 英、独、仏、中、韓から１ ［５教科６科目］	国 数 理 外 その他	国Ⅰ、国Ⅱ 数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Ａ（数と式、数列）、数Ｂ（ベクトル、複素数と複素数平面）、数Ｃ（行列と線形計算、いろいろな曲線） 物Ｂ・物Ⅱ、化Ｂ・化Ⅱ、生Ｂ・生Ⅱ、地学Ｂ・地学Ⅱから２ 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から１ ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。 面接	約 4.0 倍	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200			800	帰国子女 外国人 追加合格	
							個別学力検査	80			120	120	120		＃	440		
	後期 ３月１３・１４日	数 理 外	数Ⅰ・数Ａ 数Ⅱ・数Ｂ、工、簿、情報から１ 物Ｂ、化Ｂ、生Ｂ、地学Ｂから１ 英、独、仏、中、韓から１ ［３教科４科目］	その他 理 その他	総合科目Ⅰ 化Ｂ・化Ⅱ 生Ｂ・生Ⅱ 面接	約 5.0 倍	センター試験				200	100	200			500		
							個別学力検査					化学:150 生物:150		100	＃	400		

注１　【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄
（１）　工業数理、簿記、情報関係基礎を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者だけである。
（２）　理科、地理歴史又は公民の選択科目は、本学の個別学力検査の出願の際にその科目を届け出ること。

注２　【個別学力検査等】欄
（１）　前期日程の英語試験の一部分に聞き取り試験を行う。（３０分程度）
（２）　総合科目Ⅰ：英語の読解力と日本語の記述力を見る。（この科目では、理科系の諸専門分野における学習・活動に必要な素養としての英語の読解力と日本語の記述力を審査する。一般常識及び基礎的な理科の知識も要求される。）
（３）　総合科目Ⅱ：事象の解析への数学の応用能力を見る。（この科目では、数学の総合的な応用能力を審査する。前提とする数学の知識は、高等学校又は中等教育学校における数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Ａ（数と式、数列）・数学Ｂ（ベクトル、複素数と複素数平面）・数学Ｃ（行列と線形計算、いろいろな曲線）にわたるが、理科などの一般常識も要求される。）
（４）　総合科目Ⅰ、化学は、理科各類に共通の問題。
（５）　生物は、理科二類・理科三類に共通の問題。

注３　【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
（１）　前期日程：学力試験の成績の判定は、大学入試センター試験の成績（総得点）と個別学力検査の成績（総得点）とを総合して行う。この比率は、大学入試センター試験の成績を「１」、個別学力検査の成績を「４」とする。
＃　理科三類の面接は、総合判定の判断資料とする。
（２）　後期日程：合格者の判定は、個別学力検査の結果に基づいて行う。ただし、判定に必要のある場合は、大学入試センター試験の成績や調査書を考慮することがある。
＃　理科三類の面接は、総合判定の判断資料とする。
（３）　配点に＊印を付してある教科は、選択教科を表す。

平成16年度外国学校卒業学生募集要項の交付始まる

「平成16年度東京大学外国学校卒業学生募集要項」が決定し、８月１日（金）から入学志願者に対し、同要項の交付を開始した。

募集人員、選抜期日、選抜方法、出願資格など、特別選考の概要は別表３のとおりである。

（入試課）

別表3　　平成16（２００４）年度　外国学校卒業学生特別選考

東　京　大　学

実施科類	文科一類、文科二類、文科三類 理科一類、理科二類、理科三類
募集人員	文科一類、文科二類、文科三類 理科一類、理科二類、理科三類　第１種、第２種　各若干名
出願資格	**［第１種］（外国人であって日本国の永住許可を得ていない者）** 平成11（1999）年４月１日から平成16（2004）年３月31日までの間に、次の基礎資格を取得し、かつ、要件を満たしている者とする。 （1）基礎資格 次のア、イいずれかに該当すること。 ア　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（「外国において、学校教育における12年の課程」とは、地理的、場所的に外国で、滞在国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会すること。） イ　文部科学大臣の指定した者 ○　外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○　外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○　外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの （2）要件 次に掲げるすべての要件を満たすこと。 ア　財団法人日本国際教育協会が実施する日本留学試験（平成15(2003)年６月、11月実施のいずれか）の所定の教科をすべて受験すること（日本語・英語いずれの出題言語でも受験可）。所定の教科とは、文科各類を志望する者は文科系の教科である「日本語」・「総合科目」・「数学（コース１）」、理科各類を志望する者は理科系の教科である「日本語」・「理科（物理・化学・生物から２科目選択）」・「数学（コース２）」のことである。 イ　TOEFL(Test of English as a Foreign Language)を受験すること（PBT、CBTいずれでも可）。なお、出願期間までにOfficial Score Report又はExaminee's Score Recordが提出できれば、受験時期は問わない。 **［第２種］（日本人及び第１種以外の外国人）** 平成14（2002）年４月１日から平成16（2004）年３月31日までの間に、次の基礎資格を取得し、かつ、要件を満たしている者とする。 （1）基礎資格 次のア、イいずれかに該当すること。 ア　外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（「外国において、学校教育における12年の課程」とは、地理的、場所的に外国で、滞在国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会すること。） イ　文部科学大臣の指定した者 ○　外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○　外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○　外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの （2）要件 次の要件を満たしていること。 外国の学校に、最終学年を含め継続して３年以上在学したこと（文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を除く）。
選抜方法等	**［第１種］（外国人であって日本国の永住許可を得ていない者）** (1)　第１次選考　書類選考、日本留学試験・TOEFL（Test of English as a Foreign Language）の成績 (2)　第２次選考　小論文、面接 なお、小論文については次のとおりである。 ［小論文］　２問を課す。 第１問は日本語で解答し、第２問は次の言語のうちからあらかじめ出願の際に届け出たもので解答すること。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、韓国朝鮮語、アラビア語 **小論文解答言語の変更について（予告）** 平成18(2006)年度の募集から、第１種の小論文解答言語を下記のように変更する予定である。 記 小論文は２問とも日本語で解答すること。 **［第２種］（日本人及び第１種以外の外国人）** (1) 第１次選考　書類選考 (2) 第２次選考　小論文、学力試験、面接 なお、小論文及び学力試験の出題教科・科目については次のとおりである。 ［小論文］　２問を課す。 第１問は日本語で解答し、第２問は次の言語のうちからあらかじめ出願の際に届け出たもので解答すること。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、韓国朝鮮語、アラビア語 ［学力試験］ （文科各類） 外国語　英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から１ ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。 （理科各類） 数学　数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Ａ（数と式、数列）、数Ｂ（ベクトル、複素数と複素数平面）、数Ｃ（行列と線形計算、いろいろな曲線） 理科　物Ｂ・物Ⅱ、化Ｂ・化Ⅱ、生Ｂ・生Ⅱ、地学Ｂ・地学Ⅱから２
出願期間	第１種　平成15（2003）年12月１日（月）から12月10日（水）まで 第２種　平成15（2003）年11月４日（火）から11月13日（木）まで
選抜期日	第１種　平成16（2004）年２月25日（水）、３月16日（火） 第２種　平成16（2004）年２月25日（水）・26日（木）、３月16日（火）
合格発表日	平成16（2004）年３月23日（火）
その他	「平成16（2004）年度外国学校卒業学生募集要項」は、８月１日から交付している。 交付場所：東京都文京区本郷７丁目３番１号　東京大学入試事務室 郵送を希望する場合は、**本学あての封筒**の表に「特別選考募集要項請求」と朱書し、**返信用の封筒**を同封して下記あてに申し込むこと。 返信用の封筒は、角形２号（縦33.2cm、横24.0cm）の大きさとし、郵便番号、住所、氏名を明記した上、210円分（速達は520円）の切手を貼ること。 申込先：〒113-8654　東京都文京区本郷７丁目３番１号　東京大学入試事務室

平成16年度大学入試センター試験受験案内の交付始まる

「平成16年度大学入試センター試験受験案内」の交付が９月１日（月）から全国の国公立大学等で一斉に始まった。

「受験案内」の交付を受けようとする者は、最寄りの国公立大学又は大学入試センター試験を利用している私立大学に、直接又は出身高校を経由して申し込むことになっている。本学では、高校からの一括請求分については、学生部入試課で交付し、個人からの請求については、本郷の各学部事務部窓口及び教養学部で交付している。

（入試課）

平成15年度第１回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される

平成15年度第１回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」が、去る７月17日（木）11時から、関係者及び奨学生指導教官等の臨席の下に本部庁舎特別会議室で開催されました。

平成10年７月に設立された東京大学外国人留学生後援会は、「本学における留学生交流を促進するため、本学留学生への経済的支援、留学生と教職員・地域社会との交流促進、本学派遣の日本人学生等が事故等に遭った場合への援助等を行うこと」を目的として活動してきましたが、本年度についても奨学生20名（支給期間：平成15年４月～平成16年３月までの１年間、月額５万円）が決定され、当日は会長である佐々木総長より奨学生へ一人ずつ、奨学生証書が手渡されました。

奨学生証書授与式

次いで、佐々木会長より「本奨学金が、教職員、卒業生等の方々の善意によるものであるので、奨学生となった誇りを持って研究・勉学に励んでほしい」との挨拶があり、その後、奨学生を代表して大学院学際情報学府楊軼さんより感謝のスピーチがあり、「何度申請しても全く奨学生に採用されなかったが、今回留学生後援会奨学金という特別な支援が得られて大変感謝している。後援会にご寄付頂いた一人一人の温もりを感じながら勉学に邁進したい」との言葉が述べられました。

平成11年度以来、本会奨学生として110名を採用することができましたのは、多くの諸先輩及び教職員等、会員の方々からのご協力の賜物であり、東京大学外国人留学生後援会として、ここに心から感謝の意を表明いたします。また、本会による外国人留学生の支援活動の更なる充実に向け、教職員の方々にはなお一層のご支援をいただけますようお願い申し上げます。

第９期奨学生との記念撮影

問い合わせ先
　東京大学外国人留学生後援会事務局
　（研究協力部留学生課留学生第二掛内・内線22372）

（東京大学外国人留学生後援会）

第３回関東地区文部科学省関係機関等剣道大会東京大学教職員活躍・個人戦３連覇達成

第３回を迎える関東地区文部科学省関係機関等剣道大会が６月28日（土）、東京大学・駒場キャンパス内第二体育館にて開催され、団体戦及び個人戦の熱戦が繰り広げられました。

同大会へは、東京大学チームから教職員４名が参加、北山寛三段（海洋研究所）・林修一四段（元大学院法学政治学研究科）・等々力賢四段（大学院工学系研究科）・親泊寛昌五段（大学院工学系研究科）が参加し活躍を見せました。

団体戦では、５チーム（東京大学・千葉大学・筑波大学・文部科学省・大学連合）が出場し総当りの激戦を繰り広げました。東京大学チーム（等々力賢四段・林修一四段・親泊寛昌五段）は、前年度優勝ということもあり文部科学大臣杯のカップを返還し、団体戦２連覇を目指し戦いましたが、大学連合チームに僅差で破れ大会２連覇の夢を断たれてしまいました。団体戦の最終結果は準優勝に終わりました。

個人戦は、前回、前々回と優勝している親泊寛昌五段が今回も順調に勝ちあがり、決勝では、伊豆四段（東京

医科歯科大学）と戦い見事２本勝ちを収め大会３連覇を達成いたしました。親泊寛昌五段は、今大会の前身である国立大学等教職員剣道大会より数えて合計７回の優勝を果たし、東京大学の名前をより一層高めました。

試合後も交流稽古が行われ、剣道を愛好する者同士、和やかな雰囲気でお互いの親睦を深め合いました。

【東京大学に関係する方々へ（教職員・学生等）】

私たちは、東京大学の教官や事務官、非常勤の職員の方々、学生などの間で剣道を通じて様々な情報交換やお互いのコミュニケーションを図っています。昨年は女性の方で初めて剣道を習いたいという方がおられ昨年の10月から剣道を始め、私たちの様々なアドバイスと自身の努力の積み重ねによって今年の７月には見事１級を取得されました。次は、初段合格を目指し日々精進しています。

また、剣道を通じ、教職員同士で信頼を深めつつ新たなネットワークを活かしながら様々な問題解決をしていき相互扶助の関係を大切にし、つながりから得た財産を各自の職場で活かしています。

私たちの剣道の活動は、各自の都合にあわせて時間があう者同士集まり、文京区民体育館・文京区民スポーツセンターなどで稽古を実施することや文部科学省内の道場で合同稽古をしています。昔、剣道をやっていた方、経験者、剣道・居合いなどに興味のある方、また剣道を生で見てみたい方、剣道以外にも個々のつながりやコミュニケーション等に興味のある方などいらっしゃいましたら、お気軽に下記までご連絡下さい。

－連絡先－
大学院工学系研究科システム量子工学専攻
（工学部12号館）事務室
親　泊　寛　昌（おやどまり　ひろまさ）
ＴＥＬ：　０３－５８４１－６９６３
ＦＡＸ：　０３－３８１８－３４５５
メールアドレス：oya@q.t.u-tokyo.ac.jp

団体戦参加の東京大学チーム

≪ 部局ニュース ≫

大学院法学政治学研究科で外国人留学生との懇談会開かれる

７月３日（木）17時半から、山上会館１階談話ホールにて大学院法学政治学研究科・法学部主催による外国人留学生との懇談会が開かれた。

この催しは、本研究科・学部の留学生等と教職員が、相互の理解を深めることを目的として毎年７月に開催されている。今年も留学生センターの先生方を来賓としてお招きし、留学生、比較法政国際センター所属客員教授・外国人研究員、日本人学生チューター、教職員等、総勢80名が出席した。

留学生とチューター

能見善久教授（法学政治学研究科合同専攻会議主任）の司会進行で、菅野和夫法学政治学研究科長の挨拶、渡辺浩教授による乾杯の後、歓談に入った。

宴たけなわになった頃、留学生を代表して、博士課程１年の呉博群さん（台湾出身）が、「川の流れのように」を熱唱し、受験勉強を精神面で支えてくれた奥様に感謝の言葉を愛情たっぷりに披露した。続いて、大学院外国人研究生のアクストマン・ダフネさん（ドイツ出身）は、オペラ「Sadko」の中からインドの海の美しさを詠った歌を独唱し、美しい歌声に会場は拍手喝采で沸き立った。

呉博群さんのスピーチ

アクストマン・ダフネさんの独唱

普段は研究活動に忙しい学生たちだが、この日ばかりは教官や友人と大いに親睦を深め、和やかな雰囲気のなか19時半に散会した。

（大学院法学政治学研究科・法学部）

比較法政国際センター再設立記念シンポジウム・レセプションが行われる

大学院法学政治学研究科附属比較法政国際センターは2003年度末で10年の期限を満了し４月１日より再スタートを認められた。再設立を記念して、シンポジウム及びレセプションを７月18日（金）にアカデミーヒルズ・六本木フォーラムで開催した。

シンポジウム会場の様子

同オーディトリアムで行われた公開シンポジウムは同研究科学術創成プロジェクト「生命工学・生命倫理と法政策」との共催、（社）商事法務研究会、（財）学術振興野村基金、（財）社会科学国際交流江草基金の協力により「現代社会のガバナンスを考える」をテーマに、第１セッション「企業とガバナンス」、第２セッション「医療におけるガバナンス」、第３セッション「ガバナンスにおける法の意味」の３部で構成された。宮廻美明センター教授と蒲島郁夫教授の司会により、神田秀樹教授、樋口範雄教授、藤原帰一教授の報告、北岡伸一教授及び城山英明助教授のコメント、また、マルコム・スミス メルボルン大学教授、金建植ソウル大学教授、ロバート・レフラー アーカンソー大学教授、神作裕之学習院大学教授をコメンテーターに迎え、いずれのセッションも150席の座席数を大幅に上回る参加申し込みがあり、当日も補助椅子を使用しての開催となった。後日のアンケート調査でも、法学・政治学のコラボレーションによる今回のシンポジウムの試みは高い評価を得た。

シンポジウムにおいて講演する神田教授

また、シンポジウム終了後に同スカイルームで開催されたレセプションには100名以上の学内外からの出席者を迎え、菅野和夫本研究科長によりセンターの10年間の研究活動と今後の抱負が述べられ、佐々木毅総長による挨拶では、同日公表された「21世紀COEプログラム」に同研究科の法学系の「国家と市場の相互関係におけるソフトロー」及び政治系の「先進国における《政策システム》の創出」プログラムの採択について言及がなされ、今後センターが国際学術交流の推進のために益々重要な存在となることが強調された。さらに、石川明文部科学省研究振興局長及び二宮正人サンパウロ大学法学部教授から祝辞をいただき、石井紫郎本学名誉教授（元副学長）の御発声によって乾杯が行われた。会場は10年間のセンターの人的ネットワークの構築を象徴するなごやかな雰囲気に満たされ、盛会の裡に終了した。

レセプションにおいて挨拶する佐々木総長

（大学院法学政治学研究科・法学部）

医科学研究所「オープンキャンパス」開催される

去る８月３日（日）10時から16時30分まで、医科学研究所オープンキャンパスが開催されました。

この催しは医科学研究所の活動を地域社会など広く一般に理解してもらうため前年度から企画されたもので、今年度で２回目となります。

今回も、前年度と同様に次代を担う小、中、高校生に興味を持ってもらえるようわかりやすい内容となるよう随所に工夫がされました。当日は梅雨明けの爽やかな夏空になり、近隣地域の親子連れの方から遠方の方まで約250名の参加を得ることが出来ました。

近代医科学記念館では、医科学研究所の営みを展望しつつ医科学の今日までと未来に思いを馳せていただき、講堂では、医科学研究所教官による二題の講演や医学教育に供せられた歴史的映像資料の上映が企画されました。

講堂にて講演を行う甲斐副所長

また、アムジェンホールにおいては、顕微鏡を用いた癌細胞の病理学的観察や最先端の研究成果の紹介が行われ、ヒトゲノム解析センターでは、参加者から大きな関心を集めたスーパーコンピューターの見学など、一部工事の関係等で開放スペースに制約がありましたが、参加された皆様は、医科学研究所の研究教育活動の雰囲気を味わいながら、医科学の進展に更なる興味と理解を深められたことと思います。

アムジェンホールにて癌細胞標本を観察する参加者

近年特に、バイオ関連施設は、地域社会から大きな関心を集めているところであり、同施設の円滑な運営を確保するためには、近隣の皆様方から十分な理解を得ることが大変重要なこととなっています。

医科学研究所では、今回の催しを足掛かりに、更に地域社会とのつながりを深めることが出来るよう、今後も様々な形で交流の機会を作っていきたいと考えています。

ヒトゲノム解析センタースーパーコンピュータ室にて説明を受ける参加者

（医科学研究所）

医科学研究所で「バイオシーズマッチング会」開催される

医科学研究所は、７月11日（金）東京都産業労働局との共催で医科研講堂においてバイオシーズマッチング会を開催した。同会は、東京都がバイオ産業振興を目的に都内の大学、研究所との共催により関連企業を対象として開催したもので、今回は、産学官連携を積極的に推進する医科研のバイオシーズが紹介された。医科研は本年４月より「学術連携推進室（LOCUS：Liaison Office for Cooperation in Upcoming Science)」を設置し全学の産学連携推進室と密接に協力しながら、産学官連携に力を入れている。同会では、医科研教官によるシーズ紹介に続いてLOCUS企画による産学官連携推進DVD「SEEDS―医科研の挑戦―」を発表した。会終了後の懇親会では、製薬企業、バイオベンチャー、ベンチャーキャピタリスト、特許や監査法人関係者と教官との間で熱心な情報交換が行われた。プログラムは以下の通り。

中村義一医科学研究所学術連携推進室長の講演

テーマ：「ゲノムから医療・創薬へ―医科研の発言―」

東京都挨拶　乾　敏一（産業労働局産業政策部長）
開 会 挨 拶　山本　雅（所長）
挨　　拶　新井賢一（前所長、ＢＴ戦略会議委員）
中村祐輔（ヒトゲノム解析センター長）
　　ゲノムからオーダーメイド医療へ
中内啓光（ヒト疾患モデル研究センター・
　　幹細胞治療動物モデル分野）
　　幹細胞システムと再生医療
中村義一（基礎医科学大部門・遺伝子動態分野）
　　RNAを使った医療と創薬
清野　宏（感染免疫大部門・炎症免疫学分野）
　　食べるワクチン、吸うワクチン
渋谷正史（癌細胞増殖大部門・腫瘍抑制分野）
　　血管新生：その促進法と抑制法の医療への応用
北村俊雄（先端医療研究センター・細胞療法分野）
　　ポストゲノム研究におけるレトロウイルステクノロジー
浅野茂隆（医科研附属病院長、
　　先端医療研究センター長）
　　開発研究のためのスーパーハイウェイ：
　　医科研ＴＲシステム
産学官連携推進DVD紹介「SEEDS －医科研の挑戦－」
閉 会 挨 拶　清木元治（副所長）

熱心に講演を静聴する参加者

（医科学研究所）

平成15年度教職員向け産学連携に関する講習会を開催する

生産技術研究所では、７月４日（金）に産学連携に関する教職員研修の一環として、文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課技術移転推進室長の小山竜司氏を講師として、法人化後の産学連携に関する文部科学省の取り組みについて、講習会を開催した。

この講習会は、平成12年度から毎年所内の教職員を対象に開催しているが、今回は、本所のみならず、同じ駒場Ⅱキャンパス内の先端科学技術研究センター及び国際・産学共同研究センターの教職員にも参加を呼びかけ、本所所長を始め、産学連携業務に携わる関係者が多数出席した。

小山室長からは、【～「あ・うんの呼吸」型・「おつきあい」型連携から契約やルールに基づく組織的な連携へ～】と題して、文部科学省が進めている産学連携促進方策の状況、日本の大学の高いポテンシャルや、意欲的な取組の様子などについて説明があった。

その後の質疑応答では、特に、知的財産権の機関所有に関する考え方、職務発明の取扱い、大学知的財産本部の具体的なイメージなどを中心に、活発な意見交換がなされ、新しい産学連携の姿についての理解を大いに深めることができた。

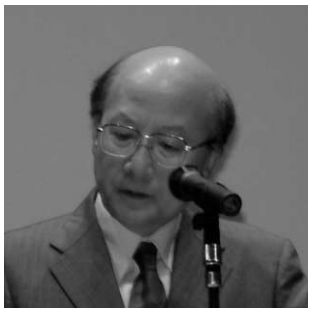
講習会の様子

（生産技術研究所）

第28回宇宙線国際会議開催される

宇宙線研究所では、去る７月31日（木）から８月７日（木）の期間、日本物理学会との共催で茨城県つくば市つくば国際会議場で、第28回宇宙線国際会議を開催した。宇宙線国際会議が日本で行われるのは24年ぶり３回目で、41カ国約750人の宇宙線研究者が参加した。

開会式では、吉村太彦宇宙線研究所所長、小宮山宏副学長他による挨拶がおこなわれた。それにつづいて、小柴昌俊名誉教授（2002年ノーベル物理学賞受賞）の講演がおこなわれ、15の招待講演、３分野に別れての一般講演等が一週間にわたっておこなわれた。



吉村太彦宇宙線研究所所長

小宮山宏副学長

会議では宇宙線、宇宙線の起源、X線、γ線、重力波、太陽系、惑星間空間、高エネルギー宇宙線、ニュートリノ、ハドロン相互作用等、宇宙線に関連する最先端の講演、質疑応答が活発におこなわれ、意義深い国際会議となった。
（http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/icrc2003/）

小柴昌俊名誉教授による講演

（宇宙線研究所）

海洋研で「海の日」一般公開

7月21日（月）に「海の日」を記念して恒例の一般公開を行った。中野区をはじめ近隣の区から小、中、高校生及び大学生、一般区民が不安定な天候にもかかわらず約160名もの方々が来所された。今年のテーマ「海を知ろう」として展示と講演を行った。また、各会場で海洋研究所の紹介ビデオを放映した。参加者からは各展示コーナーに設置してある、実験観測機器や水槽の魚などを見ながら、活発な質問があり、海洋研究所と海への関心の大きさが感じられた。海洋研究所では、今後も海洋学に関する情報を一般の方々に公開し、研究所への理解を深めていただくため、今後も「海の日」の一般公開を恒例として実施していくこととしている。

受付の様子

東シナ海で採集された稚魚の説明（資源生態研究室）

（海洋研究所）

平成15（2003）年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（夏学期）（第36期生）の修了証授与式行われる

留学生センターでは、本年4月から本年度夏学期を開講していたが、このほど、全日程を終了し、8月5日（火）15時30分から、医学部図書館333号室において、集中コース・特別コースの49名の修了者に対する修了証授与式を行った。

式には、来賓の小宮山副学長のほか、関係教官らが列席、飯塚センター長挨拶に続いて、小宮山副学長から祝辞が述べられた。副学長は、半年に亘るコースをやり遂げたことをねぎらったあと、上達した日本語に対する賛辞を述べて、修了を祝うとともに、この日をひとつの区切りとして一層励むよう修了者たちに呼びかけた。

祝辞を述べる小宮山副学長

続いて修了者ひとりひとりに飯塚センター長から修了証が手渡され、留学生センター菊地教授の講評のあと、各クラスの代表者が日本語でスピーチを行い、来日当初の日本での生活や日本語学習への不安な気持ち、それを克服した喜び、いろいろな国からのクラスメートとの楽しい思い出や、これから本格的に研究に取り組むことへの抱負などが語られた。

和やかな雰囲気のうちに式は終了し、引き続き山上会館にところを移して、修了者を囲んでの懇談会が開かれた。これには小宮山副学長も参加され、修了者たちは、クラスごとに教官を囲んで写真撮影をするなどしながら、日本語で歓談し、互いに修了を祝い、別れを惜しんだ。

なお、今期の修了者49名の所属は以下の10研究科、出身は以下の27の国（または地域）である。

法学政治学研究科	6名	韓国	4名
医学系研究科	2名	台湾	1名
工学系研究科	13名	中国	4名
人文社会系研究科	4名	フィリピン	2名
農学生命科学研究科	9名	インドネシア	1名
総合文化研究科	2名	マレイシア	3名
薬学系研究科	1名	タイ	2名

数理科学研究科	1名	ミャンマー	1名
新領域創成科学研究科	6名	ベトナム	1名
情報理工学系研究科	5名	パキスタン	2名
		バングラデシュ	2名
		ネパール	2名
		イラン	2名
		エチオピア	1名
		ルーマニア	1名
		オーストラリア	1名
		コスタリカ	1名
		アルゼンチン	1名
		ブラジル	6名
		ノルウェー	2名
		デンマーク	1名
		イギリス	1名
		フランス	1名
		スペイン	1名
		イタリア	2名
		オーストリア	2名
		ロシア	1名

第36期生との記念撮影

（留学生センター）

クラス１代表　ラウト　チャンドラ　カント
（ネパール、医学系研究科）

先生方、留学生センターのみなさん、こんにちは。

私は、ネパールのCKともうします。今日は、クラス１のことを話したいと思います。このきかいをいただいて、ありがとうございます。

私たちは、いろいろなゆめを持って、４月に日本へ来ました。でも、日本語が分からないので、新宿のおおぜいの人の中でさびしくなりました。

それから、２週間ぐらい後で、私たちの日本語のクラスがはじまりました。よちよちほこうからはじめて、ひらがなの「あかさ」からことば、ことばから文、文からさくぶんと会話と、だんだん歩けようになりました。そして、いま、新しい店に入ることができます。NTTに電話をかけることもできます。そして、しどうきょうかんに休みをたのむこともできます。

私たちのクラスは、ほんとうにとてもおもしろくて元気だったと思います。先生たちのいい教え方とリッチユーモアがあったので、日本語の勉強はおもしろかったです。また、先生たちは、日本語だけじゃなく、あいさつのしかたやたなばたの話も教えてくださいました。

私たちは、時々、ていねいに話せなかったと思います。でも、留学生センターのスタッフと先生たちは、いつも親切で、てつだってくださいました。どうもありがとうございました。

今日はしゅうりょうしきです。

でも、おわりじゃないです。勉強は長い・・・しゅうてんはありません。私たちは、日本語のりょこうをはじめたばかりです。日本にはきれいなもの、すてきなこと、そして、いいたいきもちがたくさんあります。私たちは、これからも日本語のりょこうをつづけたいとおもいます。

「つよいあり　だんだんのぼる　たかいかべ」

私たちも、もっとがんばると、もっと上手になると思います。

このしゅうりょうしきの後で、私たちはべつべつのせんもんの勉強に忙しくなりそうです。たぶん、会うことはむずかしくなると思います。でも、私たちには、いっしょに勉強したとてもたのしい時間のおもいでがあります。みなさん、メールを書いてください。できたら、時々会いましょう。

さいごに、もう一度、先生方、どうもありがとうございました。それから、留学生センターのスタッフのみなさん、いつもなんでもてつだってくださって、どうもありがとうございました。

これからもどうぞよろしくおねがいします。

クラス１Ｓ代表　トニ　バーティアル
（インドネシア、情報理工学系研究科）

先生方、みなさん、こんにちは。

私は１Ｓクラスのだいひょう、トニです。４か月前にインドネシアからまいりました。７月に留学生センターの日本語の勉強がおわりました。今日は１Ｓクラスと私のけいけんについてお話ししたいと思います。

１Ｓクラスには、学生が５人いました。ぜんぶべつの国から来た学生です。フランスのエチエンヌさん、中国のリさん、ノルウェイーのルンデさん、バングラデシュのノーマンさん、それからインドネシアの私です。はじめて日本に来たとき、日本語がほとんどわかりませんでしたから、いろいろなことがぜんぶむずかしかったです。たとえば、どうやって電車のきっぷを買って、どのバスに乗ればいいか、わかりませんでした。いくら日本がべんりでも、日本語がわからなければたいへんです。ぜんぶ漢字で書いてあるからです。

先生方はいっしょうけんめいじゅぎょうをしてくださいました。１Ｓクラスでは、１日に１課勉強しました。３か月の間にきょうかしょが２さつおわりました。それは、とてもはやくて大変でした。日本語の動詞は形がたくさんあるし、漢字もたくさんおぼえなければならないし、日本語はむずかしかったです。でも、今は日本語が少しわかるようになったと思います。かなを読んだり、書いたりできるようになりました。漢字も少しずつ勉強しました。「ちりもつもれば山となる」ということわざがあります。日本語をはなせるようになると、日本のせいかつもわかります。それは楽しかったと思います。

この４か月の間に日本語の勉強だけじゃなくて、いろいろなけいけんもしました。東京はとても大きくて、にぎやかです。渋谷や新宿は人が多いです。よるおそい時間も電車にはたくさんの人がのっていて、びっくりしました。日本人ははたらきすぎで、毎日ざんぎょうします。しごとがいそがしくても、けんこうに気をつけて、ゆっくりしたほうがいいです。でも電車の中で本や新聞を読んでいる人がたくさんいます。日本人は読むことがだいすきです。いつでも、どこでも、読みます。それはいいしゅうかんだと思います。私もこのしゅうかんを見習いたいと思います。

さいごになりましたが、先生方、じむしつのみなさん、ほんとにおせわになりまして、どうもありがとうございました。エチエンヌさん、リさん、ルンデさん、ノーマンさん、みなさんと勉強できて、とても楽しかったです。ありがとうございました。

クラス２代表　ヨハンセン　シリ　ストロンメ
（ノルウェー、工学系研究科）

みなさん、こんにちは。ノルウェーのシリともうします。専門は建築です。クラス２をだいひょうしてスピーチができるのは、ほんとうにうれしいです。どうぞよろしくおねがいします。

クラス２の12人の学生は、全員ちがう国から来ました。イラン、ブラジル、オーストリア、タイ、マレーシア、スペイン、ベトナム、ミャンマー、オーストラリア、コスタリカ、フィリピン、そしてノルウェーでした。

４月に日本に来たとき、わたしたちはみんな、かんたんな日本語しかできなくて、生活がたいへんでした。たとえば、電車のアナウンスや、自分の研究室での話がわかりませんでしたし、買いたいものがなかなか買えなくて、とてもこまりました。

しかし、日本語のコースがはじまって、毎日、クラスメートと勉強するようになりました。毎日、あたらしいボキャブラリー、あたらしいぶんぽう、あたらしい漢字をたくさんおぼえなければなりませんでした。わたしもふくめ、クラスのみんなは、今までにも外国語を勉強したことがありましたが、このインテンシブコースはとてもきびしくて、みんなにとって、ほんとうの意味でインテンシブだったと思います。

しかし、楽しいこともたくさんありました。会話のビデオを作ったり、漢字のおぼえかたのストーリーを作ったり、しょちゅうみまいを書いたり、テレビのコマーシャルを見たり、うめしゅの作り方を習ったりしました。

それから、クラスの友達にも、いろいろ教えてもらいました。それぞれの国のきれいな町や、おいしい料理や、たのしいしゅみや、きけんな旅行の話を聞いて、いろいろな国の生活や文化を知ることができたのは、とてもいい勉強になったと思います。

そして、この４か月で、クラスのみんなは、だんだんいい友達になりました。また、日本語を使って生活することも、だんだんむずかしくないと感じるようになりました。いそがしくてたいへんでしたが、日本たいざいのはじめの4か月を東大留学生センターですごせたのは、とてもしあわせだったと思います。

これは、先生がたがわかりやすく親切に教えてくださったおかげです。むずかしい質問をたくさんして、いつもこまらせましたが、先生がたはいっしょうけんめい答えてくださいました。ほんとうにありがとうございました。

今は、習ったたくさんのことが、まだあたまの中でごちゃごちゃになっています。しかし、夏休みにゆっくり休んで、また秋からも日本語の勉強を続けようと、みんな思っています。

先生がた、そして事務のみなさん、これからもよろしくお願いします。ありがとうございました。

クラス３代表　アサフ　エドソン　タカオ
（ブラジル、工学系研究科）

クラス３の皆さんと初めて会ったのが昨日のことのように感じます。コースの最初の１週間を皆よく覚えていると思います。新しい先生が来るたびに「では、自己紹介しましょう」。４、５回目の自己紹介からは、皆「自己紹介だけはよくできるようになった」と笑っていましたが、おかげでしっかり皆の名前を覚えました。

初めは、皆、毎朝違う席に座りましたが、いつの間にかに決まった席になりました：ルーマニアのエレナさん、ブラジルのミユキさんとユリさん、タイのポンペンさん、イタリアのマニュさん、マレーシアのフォンさん、ブラジルのリリアンさん、私、そしてデンマークのカールさん。親近感ができて、皆助け合ったり、それぞれの国のことを教え合ったり、休んだ友達のことを心配したりしました。とても仲のいいグループになって、よかったと思います。

コースが進むにつれて一つの習慣ができました。それは毎日一緒に食事をすること。最初は皆英語で話すのが普通でしたが、いつの間にか自然に日本語も使うようになりました。授業で習ったばかりの文型と表現を使おうとして、変な文を作ってしまい、よく笑ったものです。

このような友情の時間は、何年たっても誰も忘れない、いい思い出になるでしょう。

留学するのは、何ともいえないすばらしい経験だと思います。どんなことからも、新しいことを学ぶ機会があると思うからです。

しかし、それに気がつくまでには辛い面もあります。家族、友達、恋人を遠い母国に置いてきて、全然違った文化、知らない人たちとの関係、口に合わない食べ物、何を言っているか分からない言葉。何もかも違う外国に一人で来るのは、実際には大変な挑戦です。「私はここに、一体何をしに来たのだろう。国へ帰りたい」と一度も思わなかった人はいないでしょう。

そのような私たちに、留学生センターは非常に貴重な役割をはたしてくれました。

留学生センターの先生方は、親切に、気長に、文法や会話や作文や漢字などを教えて下さっただけではなく、機会があるたびに日本の文化、伝統、習慣について話して下さいました。おかげで、私たちは日本の生活になれていくことができました。

毎日一緒に努力して下さった先生方は、私たちにとって、日本での最初の友達、あるいは日本での家族といえるほど大切な存在でした。

先生方一人一人にクラス３の学生は皆とても感謝しています。また、私はクラスメートたちにももちろん感謝しています。どうもありがとうございました。

クラス４代表　ペリーニ　エリザベッタ
（イタリア、人文社会系研究科）

皆さん、こんにちは。

私はイタリアから参りました、エリザベッタと申します。大学院人文社会系の研究生として、浮世絵師、葛飾北斎について研究しております。今日は今年の夏学期のクラス４の代表として、クラスの様子とメンバーについてお話しいたします。クラス４は、今学期６人いました。工学を熱心に勉強しているロシアのイーゴリさん、法学を勉強している中国のやさしいコウさん、日本語が上手に話せる韓国のウサップさんとキムさん、そして、建築を研究しているブラジルのイサムさんで、みんないい人たちでした。

このクラスは一週間４回、100分ずつのクラスでした。毎日先生とともに日本社会について書かれた記事を読む練習をしたおかげで、多くの複雑な表現と単語が使えるようになりました。また、さまざまな主題についてディスカッションし、みな、自分の意見を表そうと頑張りました。

初めは、私にとって日本語で話すのは大変難しかったです。というのは、国の大学では日本語と日本の文化を一生懸命勉強しましたが、日本人と話す機会はあまりなかったからです。そのため、勉強した言葉は私の頭に残ってはいましたが、話す時になかなか出て来ませんでした。しかし、話す練習をしたおかげで、私の日本語の能力は向上してきたと感じられるようになりました。

また、毎日の漢字のテストと読解と作文を書く練習のおかげで、みな、だんだん自分自身の日本語の能力に自信をもてるようになりました。

記憶にのこっているのは、私たちの興味や専攻について発表したことです。浮世絵について発表した私にとっては、もっとも大変な経験でしたが、非常に勉強になりました。

先生方は学生それぞれの習いたいことや希望を一人一人に聞いてくださって、それに基づいて授業の内容を設計してくださいました。たとえば、発表の際の特別で丁寧な表現など、研究生活上、大切なことを熱心に教えてくださった先生方にクラス４の代表として、心から感謝したいと思います。

留学するのはもちろん大変な経験です。留学する国の言葉をはじめ、いろいろ困難なことがありますから、歩きやすくない道ですね。でも、みなさん、この４ヶ月の勉強をいかして、それぞれの専門の研究を成功させましょう。どうもありがとうございました。

特別コース代表　マルシャン　ザビエ　エフ
（フランス、工学系研究科）

皆さん、こんにちは。私は、フランスから参りました特別コースのザビエと申します。今、工学部建築学科の研究生として、美術館設計についての研究を行っています。残念ながら、私の日本語は全然特別コースのレベルに達していないのに、知らないうちに代表に選ばれてしまいました。今日は私なりに特別コースの内容や雰囲気について述べさせていただきたいと思います。

特別コースはどんなコースかと言いますと、授業は月曜日と金曜日の二つのコースが設けられています。月曜日は韓国のユンさん、中国のチンさん、金曜日は韓国のキムさん、台湾のチェンさんが在籍し、両方を受けていたのはイギリスのフランクさん、中国のチンさん、私でした。そして、フランスのエディさんとブラジルのカロリーナさんも時々顔を出してくれました。

月曜日の授業は、まず前原先生が、フランクさんの細かい質問にドキドキさせられながら、勇気を奮い起こして指導されました。そして、わたしたちは、現代の日本社会の問題についてのさまざまな記事で日本語を勉強するとともに、意見交換を行いました。

前原先生の次に、菊地先生が後半を指導されました。専門的な読み物を一緒に読み、“せっかく”に代表されるような日本語の表現の使い方を真剣に教えてくださいました。しかし、せっかく一生懸命授業をしてくださったのに、結局最後まで生き抜いたのは三人だけでした。皆さん、お疲れ様でした。

金曜日の授業の前半は大島先生が指導されました。幅広いテーマについての番組を録画していらっしゃって、学生が日本社会について聞いて、考えて、議論する機会を作ってくださいました。頭にこびりついてはなれないのは、「個人事業主」の“社員にならずに会社の施設の中で働きながら出来高払いで給料をもらうこと”という長い定義でした。

最後に金曜日の授業の後半を担当してくださったのは、増田先生でした。論文を書いたり、文章を直したり、発表したりする練習を中心に、休憩なし、早口で、たくさん教えてくださいました。この夏休みには授業の内容を読み直して、頑張って復習しようと思っています。

留学生センターで学んだ日本語や日本文化についての知識は、これから日本で勉強し、生活していく留学生の私達にとって、様々なところで大きく役に立つでしょう。ずっと愛情や関心を注いでくださった留学生センターの先生方や関係者の皆様、どうもありがとうございました。

≪ 掲示板 ≫

第100回（平成15年・秋季）公開講座の開催決まる

メインテーマは「未来を拓く」

東京大学は平成15年３月に東京大学憲章を制定しました。「世界の公共性に奉仕する大学」としての東京大学の意志を示したものです。この東京大学公開講座は社会と共に歩もうとする東京大学の活動の一環です。今回で丁度100回目を迎えました。この節目に、東京大学の知の活動から導き出される未来への意志を、様々な側面からお伝えすることにしました。

未来は、無制限に明るくもなく、暗くもありません。未来をいかに拓くかという我々の意志が重要であり、その意志のもとでどのように行動するかが問われています。未来に価値を実現し、未来への不安を取り除くのは、人類の知です。その知の重要な一翼を大学が担っています。単なる未来の予測論では意味がありません。未来の何をどのように拓くのか、知に裏づけられた具体性が必要です。

未来を拓くという視点から、５つの側面（アプローチ）に分けて、10の講義を組みました。「環境を創る」、「安全を打ち立てる」、「生命を守る」、「情報を生きる」および「貧困と闘う」の５つです。未来を積極的に拓くためには、いわゆる文科、理科という分類を超えた多様な知の融合が求められていることがおわかりいただけると思います。大学の知の多様な拡がりと、未来を拓く大学の知のたくましさ、優雅さ、力強さを感じとっていただければ幸いです。

第100回東京大学公開講座企画委員会
委員長　大垣　眞一郎
（大学院工学系研究科長・工学部長）

第１００回（平成１５年秋季）東京大学公開講座

「未来を拓く」

● プログラム

時間	講義題目	講師
【第１日】 ９月２７日（土）		
13:30 ～ 13:40	開講の挨拶	東京大学総長 佐々木 毅
（アプローチ１『**環境を創る**』）		
13:40 ～ 14:50	計算機の中に作る気候変動	理学系研究科教授 山形 俊男 （専攻分野：大気海洋物理学）
15:10 ～ 16:20	建築の美しさと土木の美しさ	工学系研究科教授 内藤 廣 （専攻分野：建築設計）
【第２日】１０月 ４日（土）		
（アプローチ２『**安全を打ち立てる**』）		
13:30 ～ 14:40	市民の安全と刑事司法の役割	法学政治学研究科教授 佐伯 仁志 （専攻分野：刑 法）
15:00 ～ 16:10	センシング技術が拓く安全・安心な社会	工学系研究科教授 保立 和夫 （専攻分野：電子工学）
【第３日】１０月１１日（土）		
（アプローチ３『**生命を守る**』）		
13:30 ～ 14:40	糖鎖による生き物の触合い・細胞の触合い	薬学系研究科教授 入村 達郎 （専攻分野：生化学・免疫学・腫瘍学）
15:00 ～ 16:10	ウイルスと戦う	医学系研究科教授 野本 明男 （専攻分野：微生物学）
【第４日】１０月１８日（土）		
（アプローチ４『**情報を生きる**』）		
13:30 ～ 14:40	書物史から見たＩＴ革命	人文社会系研究科教授 月村 辰雄 （専攻分野：フランス文学）
15:00 ～ 16:10	ユビキタスコンピュータで情報社会を変える	情報学環教授 坂村 健 （専攻分野：ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・ｱｰｷﾃｸﾁｬ）
【第５日】１０月２５日（土）		
（アプローチ５『**貧困と闘う**』）		
13:30 ～ 14:40	若者が働ける未来	社会科学研究所助教授 玄田 有史 （専攻分野：労働経済学）
15:00 ～ 16:10	世界の貧困削減に向けて	経済学研究科助教授 澤田 康幸 （専攻分野：開発経済学）
16:10 ～ 16:20	閉講の挨拶	企画委員長（工学系研究科長・工学部） 大垣 眞一郎

◎聴講申込の御案内

聴　講　資　格	成人一般・大学生・高校生
定　　員	800名 ※定員に到達次第締め切ります。
会　　場	東京都文京区本郷７―３―１　東京大学大講堂（安田講堂）
聴　講　料	全講義（５日間）　4,000円（講義要項代を含む） 選　択（１　日）　1,000円（講義要項代を含む） ※高校生、東京大学の学生・教職員は半額とします。 なお、いったん頂いた聴講料は返還できません。
申　込　方　法	
１．聴講の申込	往復はがきでお申し込みください。 １．往復はがきの裏面に、氏名（フリガナ）・性別・年齢・郵便番号・住所・電話番号・職業・聴講日・前回までの本公開講座受講の有無（有の場合は受講時の聴講券番号）を記入してください。なお、聴講日は全講義又は選択のいずれかを必ず記入し、選択の場合は聴講月日も併せて記入してください。 ２．返信はがきの表面に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入し、裏面には何も記入しないでください。
２．聴講申込先	〒113-8654　東京都文京区本郷７―３―１ 東京大学事務局気付 財団法人　東京大学綜合研究会
３．聴講料の払込	「聴講券」が届き次第、最寄りの郵便局で備付けの郵便振替用紙により、下記の口座宛に聴講料を振り込んでください。 口座番号　００１００―６―１１００３７ 加入者名　東京大学綜合研究会 払込人住所氏名欄の最後に「聴講券番号」を必ず記入してください。
４．聴講初日	「聴講券」と聴講料振込の際手渡された「郵便振替払込金受領書」を会場受付にご持参ください。講義要項は会場受付でお渡しします。
５．修了証書	「全講義」申込で３日以上出席された場合には、ご希望により修了証書を差し上げます。 （「選択」申込で３日以上出席されても交付できません）

※　なお、本公開講座では、第100回の開催を記念して、高校生・予備校生などを対象とした特別企画（キャンパスツアー、オープンラボ及び総合研究博物館展示見学）を実施いたします。

◎問い合わせ先

〒113-8654　東京都文京区本郷７―３―１
東京大学事務局気付
財団法人　東京大学綜合研究会
電話番号　03-3815-8345

◎問い合わせ日時　祝日を除く毎週月曜日から金曜日までの９時30分から正午までと13時30分から17時までです。

第18回工学部・工学系研究科技術発表会開催のお知らせ

工学部・工学系研究科では技術系職員が教育・研究に関わる技術業務を遂行する過程で得られた成果を発表し、そのレベルを一層高めるための相互研鑽の場として、本年も「工学部・工学系研究科技術発表会」を下記に開催いたします。

聴衆制限はありません。より多くの皆様の聴講を希望いたしております。尚、技術発表会については工学部・工学系研究科のホームページでご覧いただけます。

http://www.t.u-tokyo.ac.jp/tech/2003/index.htm

日時：９月25日（木）　10：00～17：10
場所：工学部２号館　セミナー室および展示室
問い合わせ先（内線）：
工学部・工学系研究科総務課厚生掛気付
技術発表会実行委員会（26019）

プログラム

開会の挨拶
司会：実行委員長補佐　三田吉郎
10:00～10:20　実行委員長（技術部長）　笠木伸英
工学系研究科長　大垣眞一郎

口頭発表１
司会：社会基盤工学専攻　森田正人
10:20～10:40　「台風６号における群馬県境町の突風（竜巻）被害報告」
建築学専攻　山田文男
10:40～11:00　「超高速流れにおける多色カラーシュリーレン法の試み」
航空宇宙工学専攻　奥抜竹雄
11:00～11:20　「自動車エンジンの点火ノイズエミッションの制御」
原子力研究総合センター　安本　勝
11:20～11:40　「技術官と学生実験演習実習について」
機械工学専攻　浜名芳晴

口頭発表２
司会：機械工学専攻　浅川　武
13:00～13:20　実現型プロジェクト演習「ものづくりリアル工房」報告
精密機械工学専攻　斎　治男
13:20～13:40　「変位縮小機構の製作」
機械工学専攻　蓮池　彰

特別企画
司会：実行委員会副事務局長　大沢利男
13:40～14:30　「工学系サークルにおける学生のモノ作り活動」

特別講演
司会：実行委員長補佐　三田吉郎
14:30～15:30　「放電加工の新潮流」
精密機械工学専攻　教授　毛利尚武
（講演50分、質疑応答10分）

口頭発表３
司会：電気工学専攻　高田康宏
15:40～16:00　「技術報告書情報検索システムの構築」
環境海洋工学専攻　榎本一夫
16:00～16:20　「PCクラスタ（並列処理システム）の構築とアプリケーション開発」
環境海洋工学専攻　榎本昌一
16:20～16:40　「３次元CADシステムーPro/Engineerによる形状設計・NCデータ作成ーものづくり・リアル工房CAD/CAM演習」
精密機械工学専攻　碇山みちこ

表彰式
司会：実行委員会事務局長　横山　保
16:50～17:00　「研究科長賞」「技術部長賞」「デザイン賞」「ロゴマーク賞」授与

閉会の挨拶
司会：実行委員長補佐　三田吉郎
17:00～17:10　実行委員長（技術部長）　笠木伸英

懇親会
17:30～　工学部２号館　展示室

（大学院工学系研究科・工学部）

総合図書館備付け図書の推薦について

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、教養をより豊かにするために、全学の教官（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成15年度冬学期授業に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

記

１．取りまとめ窓口　各部局図書館（室）

２．推薦期限　平成15年９月26日（金）
なお、その他の図書の推薦は常時受け付けます。

３．推薦方法　総合図書館備付け図書推薦要領による。

（附属図書館）

総合研究博物館公開講座「シーボルトの21世紀」

講座概要　オランダ政府の植民地政策の担い手として江戸文政年間に来日したシーボルトは、日本人に最新の西洋医学を伝える一方で、動植物や鉱物、歴史など日本のあらゆる事物に関心を示し、標本・資料を収集した。これらはオリエントの「さらなる東方」の文化の実際を提示するものとし、19世紀のヨーロッパに少なくない影響を及ぼした。明治の東京大学開学に教師として来日したモースは、かつてシーボルトがそうしたように日本を即物的にアメリカ合衆国に伝えることに成功した。巨大な成果を生んだこの種の学術的探検は21世紀には不要なのだろうか。この問いに答えることは21世紀に生きる私たちにとって重要な意味をもつ。シーボルトの現地調査と帰国後の活動などを通じて、この問いへの回答を考えていく。

日　時　平成15年10月27日（月）～10月31日（金）までの５日間
　　各回　17：30～19：30（全５回）
場　所　総合研究博物館講義室
受講料　6,200円
定　員　50名（定員を超えた場合は抽選となります。）

応募方法　往復葉書を用い、往信部分に１講座名、２郵便番号・住所・氏名、３電話番号、４年齢、５職業を、返信部分に１返信先の郵便番号、２住所、３氏名を明記の上、下記募集期間中にお申し込み下さい。受講料の納入方法等につきましては返信葉書にてお知らせいたします。なお、応募者が定員を超えた場合抽選とさせていただきます。

募集期間　９月8日（月）～９月19日（金）
申し込み先　〒113-0033東京都文京区本郷７－３－１
　　東京大学総合研究博物館　事務室
　　公開講座担当　宛

ホームページ　http://www.um.u-tokyo.ac.jp/
ハローダイヤル　03-5777-8600

＊なお、11月７日～11月28日までの毎週金曜に開講予定の公開セミナー「博物館と政治」は諸般の都合により開講を延期することと致しました。現段階では明年２月を予定しておりますが、決定次第ホームページ、ハローダイヤル等でお知らせいたします。

（総合研究博物館）

第12回生産技術研究所技術発表会

生産技術研究所の技術官が中心となって企画、運営する技術発表会は、技術官等の研究支援業務、研究業務の成果を発信・議論する場として着実に定着し、今年で12回目を迎えます。今回もまた、技術官等の地味ではありますが堅実な日頃の活動ぶりとその成果が発表されると思いますので、学内から奮ってご来聴下さいますようご案内申し上げます。

日時：10月９日（木）　10時30分から17時
場所：生産技術研究所　第一会議室
問い合わせ先：生産技術研究所・技術発表会
　　実行委員長　鶴　達郎
　　E-mail: tadtsuru@iis.u-tokyo.ac.jp
（発表会終了後に懇親会を予定しています。）

（生産技術研究所）

空間情報科学研究センター第６回シンポジウムのお知らせ

当センターが設立されてはや５年が経過しました。この間、皆様方のご支援に支えられながら、空間情報科学のフロンティアを開拓するパイオニアとして、研究に邁進してまいりました。今回の第６回シンポジウムでは、「空間情報科学のパイオニア」のタイトルのもとに、この５年間の成果をご披露いたします。

と同時に、空間情報科学のパイオニアとして、ご活躍されているお二人の講師をお招きし、最近、社会的に注目を浴びているテーマについてご講演を賜ります。ここに皆様方のご来臨をいただきたく、ご案内を申し上げます。

空間情報科学研究センター長　岡部　篤行

空間情報科学研究センター第６回シンポジウム：
「空間情報科学のパイオニア」
日時：９月19日（金）10時～19時
場所：山上会館 大会議室（２階）

プログラム
―空間情報科学のパイオニア―

第一部：空間情報科学研究センターの研究成果
10：00～10：10
　オープニング　CSISのフロンティア開発５年間
　　岡部篤行（空間情報科学研究センター長）
10：10～11：00
　１）空間情報解析部門の研究成果
　　浅見泰司「空間情報解析と都市環境」
　　伊藤香織「都市居住のグローバルな表現」
　　宮崎千尋「GISを用いた『日向』『日影』地名の立地の解析」

11：00～11：50
2）空間情報システム部門の研究成果
柴崎亮介、瀬崎薫、有川正俊
「ユビキタス社会のための空間情報通信技術に関して」
11：50～12：40
3）時空間社会経済システム部門の研究成果
八田達夫「容積率緩和の便益：一般均衡論的分析」
丸山祐造「ヘドニック型価格指数へのリッジ回帰推定量の適用」

12：40～14：20　休 憩

第二部：招待講演「空間情報の利用がもたらす革新」
14：20～15：30
福井泰代（株式会社　ナビット）
「マンナビゲーションの最先端事例のご紹介」
15：40～16：50
原田豊・島田貴仁（科学警察研究所）
「犯罪発生マップのできるまで」

17：00～ 懇親会

申し込み・詳細：
http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/japanese/research_activities/symposium/6th/index.htm

（問い合わせ）
第６回シンポジウム事務局　担当：直井
TEL：03-5453-5690　FAX：03-5453-5698
E-mail：sympo6th@csis.u-tokyo.ac.jp
（空間情報科学研究センター）

保健センター本郷支所の診療業務の一部休診について

９月30日（火）から10月２日（木）までの間、下記の診療業務は休診となります。

診療科等	休診期間
内　　科	９月30日（火）～10月２日（木）
耳鼻咽喉科	９月30日（火）～10月２日（木）
歯科口腔外科	９月30日（火）～10月２日（木）

※ 精神神経科は通常どおり診療を行います。
（保健センター）

秋季データベース定期講習会のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおり秋季データベース定期講習会を実施します。
データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。パソコンを使った実習を中心に行います。どうぞお気軽にご参加ください。

●会場
総合図書館１階メディアプラザⅠ　講習会コーナー
●時間帯
11：00～12：00、15：00～16：00、18：00～19：00

●定員　12名（先着順）

●参加方法
参加予約は不要です。
ご都合の良い時間帯を選んで、開始時間までに会場に直接お越し下さい。

●各コースの内容

コース名	内　　容
入門コース	・授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 ・OPACなど基本的なデータベースを使った検索実習を中心とします。
実践コース（1） 文献データベース	・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース（2） 引用索引データベース （Web of Science）	・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・引用索引データベース（Web of Science）の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース（3） 電子ジャーナル new!	・東京大学で利用できる代表的な出版社の電子ジャーナルの利用方法を紹介します。 ・OPAC、FELIX、Web of Science等のデーターベースを用いた文献検索の実践演習を行います。

●スケジュール（9月～10月）

月	火	水	木	金
9/1	9/2 11:00~12:00 入門	9/3	9/4 18:00~19:00 実践（1）	9/5
9/8 11:00~12:00 実践（2）	9/9	9/10 11:00~12:00 実践（3）	9/11	9/12 15:00~16:00 実践（1）
9/15	9/16 18:00~19:00 実践（2）	9/17	9/18 15:00~16:00 入門	9/19
9/22 18:00~19:00 実践（1）	9/23	9/24 15:00~16:00 実践（2）	9/25 休館日	9/26 18:00~19:00 実践（3）
9/29	9/30 11:00~12:00 実践（1）	10/1	10/2 11:00~12:00 実践（2）	10/3
10/6 11:00~12:00 入門	10/7	10/8 15:00~16:00 実践（1）	10/9	10/10 18:00~19:00 実践（2）
10/13	10/14 15:00~16:00 実践（3）	10/15	10/16 18:00~19:00 実践（1）	10/17
10/20 15:00~16:00 実践（2）	10/21	10/22 18:00~19:00 入門	10/23 休館日	10/24 11:00~12:00 実践（1）
10/27	10/28 11:00~12:00 実践（2）	10/29	10/30 11:00~12:00 実践（3）	10/31

http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/

なお、情報基盤センターでは定期講習会の他、データベース出張講習会も実施しております。ご要望に応じた内容で研究室までお伺いします。授業やゼミ等でご活用下さい。

希望の日時、内容等をメールでお知らせ下さい。スケジュールを調整の上、折り返しご連絡します。

●申し込み先　学術情報リテラシー掛（２２６４９）
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp
（情報基盤センター）

≪ 事務連絡 ≫

人 事 異 動（教官）

発令年月日	氏　　名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
		（辞　　職）	
15. 7. 31	中 福 雅 人	辞　　職	大学院医学系研究科助教授
15. 8. 31	本 間 之 夫	〃	〃
		（死　　亡）	
	平 井 久 丸	平成15年8月23日死亡	大学院医学系研究科教授
		（採　　用）	
15. 8. 1	中 野 明 彦	大学院理学系研究科教授	理化学研究所主任研究員
〃	MITCHELL JAMES GORDON	海洋研究所助教授	フリンダース大学上級講師
15. 9. 1	難 波 和 彦	大学院工学系研究科教授	大阪市立大学大学院工学研究科教授
		（昇　　任）	
15. 7. 16	神 野 茂 樹	大学院医学系研究科助教授	大学院医学系研究科助手
〃	青 木 隆 平	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
〃	新 谷 昌 人	地震研究所助教授	地震研究所助手
15. 8. 1	門 脇 孝	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科助教授
〃	綱 島 浩 一	大学院医学系研究科助教授	医学部講師
〃	相 良 泰 行	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
〃	尾 崎 博	〃	〃
〃	安 藤 英 幸	大学院新領域創成科学研究科助教授	大学院新領域創成科学研究科環境学専攻人工環境学講座助手
〃	堀 田 武 彦	大学院情報理工学系研究科助教授	大学院情報理工学系研究科講師
〃	大 木 康	東洋文化研究所教授	東洋文化研究所助教授
〃	高見澤 磨	〃	〃
〃	刈 間 理 介	環境安全研究センター助教授	信州大学医学部医学科統合生理学講座助手
15. 8. 16	割 澤 伸 一	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
〃	伊 藤 耕 一	医科学研究所助教授	医科学研究所助手
〃	尾 上 陽 介	史料編さん所助教授	史料編さん所助手
15. 9. 1	森 俊 則	素粒子物理国際研究センター教授	素粒子物理国際研究センター助教授
		（配 置 換）	
15. 8. 1	林 良 博	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科獣医学専攻比較動物医科学講座獣医解剖学専攻分野教授
		（転　　出）	
15. 8. 1	浅 井 圭 介	東北大学大学院工学研究科教授	大学院工学系研究科助教授
〃	石 岡 圭 一	京都大学大学院理学研究科助教授	大学院数理科学研究科助教授
15. 9. 1	土 屋 昌 弘	独立行政法人通信総合研究所基礎先端部門光情報技術グループ主任研究員	大学院工学系研究科助教授
		（転　　任）	
15. 7. 8	河 合 正 弘	社会科学研究所教授	財務省会計センター所長
15. 8. 1	水 流 聡 子	大学院工学系研究科助教授	広島大学医学部保健学科健康科学・基礎看護学講座助教授
〃	川 口 正代司	大学院理学系研究科助教授	新潟大学理学部助教授
〃	岡 崎 毅	社会情報研究所助教授	総務省郵政行政局信書便事業課課長補佐
		（併任解除）	
15. 7. 8	河 合 正 弘	社会科学研究所教授の併任を解除する	財務省会計センター所長
15. 7. 15	菊 地 正 幸	地震研究所附属地震予知情報センター長の併任を解除する	地震研究所附属地震予知情報センター地震発生機構論分野教授
15. 8. 8	似田貝 香 門	副学長の併任を解除する	大学院人文社会系研究科教授

人　事　異　動（教官）

発令年月日	氏　　名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
		（併任解除）	
15．9．1	浅　野　茂　隆	医科学研究所附属病院長の併任を解除する	医科学研究所附属先端医療研究センター分子療法分野教授
		（併　　任）	
15．8．1	田　内　裕　之	大学院農学生命科学研究科助教授	独立行政法人森林総合研究所職員
〃	石　岡　圭　一	大学院数理科学研究科助教授	京都大学大学院理学研究科助教授
〃	川　村　　宏	海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター教授	東北大学大学院理学研究科附属大気海洋変動観測研究センター教授
〃	阿　部　勝　征	地震研究所附属地震予知情報センター長	地震研究所附属地震予知情報センター地震活動・津波発生機構分野教授
15．8．15	渡　辺　　浩	副学長	大学院法学政治学研究科教授
15．9．1	岩　本　愛　吉	医科学研究所附属病院長	医科学研究所附属先端医療研究センター教授
		（命）	
15．8．12	伊　藤　泰　男	原子力研究総合センター長事務代理	原子力研究総合センター教授

人　事　異　動　（事務官）

発令年月日	氏　　名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
15．7．25	小　島　幸　治	初等中等教育局付（併）内閣府参事官（横断的事項担当）（政策統括官（科学技術政策担当）付）	企画調整官
〃	弦　本　英　一	企画調整官	文部科学省生涯学習政策局生涯学習振興課専修学校教育振興室長
15．7．31	土　屋　良　弘	辞　　職	教養学部等経理課課長補佐
15．8．1	梶　野　愼　一	文部科学省大臣官房付	事務局長
〃	上　杉　道　世	事務局長	文部科学省大臣官房付
15．8．31	中　西　景　三	辞　　職	医学部附属病院医療サービス課専門職員

≪ 訃 報 ≫

寺澤　一　名誉教授

本学名誉教授寺澤一先生は、去る８月15日逝去されました。享年78歳でした。

先生は、昭和24年東京大学法学部政治学科を卒業され、法学部副手、助手、助教授を経て、昭和38年国際法担当講座の教授に就任されました。以来、昭和60年停年によって退官されるまで、36年間にわたり本学において研究教育に従事され、国際法学の発展に多大の貢献をなさるとともに、多数の研究者を養成されました。在職中、奨学委員会委員長、学寮委員会委員長を務められるなど、学内行政に尽力される一方、学外では、学術奨励審議会委員、日本学術会議公法政治学研究連絡委員会委員、同法律学政治学研究連絡委員会委員、国立大学協会第四常置委員会専門委員、大学設置審議会専門委員として、わが国の学術行政に大きく貢献されました。

先生は、研究者としての出発点から、力と法という国際法にとって最も根源的な問題に取り組み、助手論文「血讐論」を著しました。国際関係における制裁や復仇の根源をゲルマン社会における血讐に求めた本論文は極めて独創的かつ問題提起的な研究として、今日まで高い評価を受けています。先生のこの分野での作品としては、「地域主義の偏向」「復仇制度の成立」など多くのものがあります。さらに、先生は、『国際法と現代』『安保条約の問題性』などの著作を通じて、国際法学に社会学的方法を求めながら、現実の国際政治と国際法の架橋につとめられ、指導的役割を果たされました。国際法学会では、庶務主任、編集主任、常務理事として尽力され、平成６年には名誉会員に選ばれました。

先生は、本学ご退官後は、獨協大学法学部長兼大学院法学研究科委員長として、同大学大学院法学研究科博士課程創設に尽力されました。さらに埼玉県総合行政施策審議会会長、大宮市総合振興計画審議会会長、大宮市情報公開・個人情報保護審査会会長、テレビ埼玉番組審議会委員長を務められ、地方行政や地域の発展に多大の貢献をされました。さらに、国連支援交流協会理事長として、民間レベルの国際貢献に尽力されました。

ここに先生の卓越した功績と温かいお人柄をしのびますとともに、謹んで哀悼の意を表します。

（大学院法学政治学研究科・法学部）

予期せぬ新たな発見の芽を

小柴昌俊先生がニュートリノ天文学を開拓し、ノーベル物理学賞を受賞されたが、この研究を行った「カミオカンデ」実験の当初の目的は、ニュートリノ天文学ではなかった。1980年頃、「力の大統一理論が正しければ、陽子が崩壊するはずである」という素粒子理論が提唱され、それを実証すべく1983年に神岡の山中に3,000トンの水タンクを作ったのが始まりである。目的の陽子崩壊はいっこうに発見されず、実験は失敗かとも思われたが、小柴先生は装置がニュートリノにも感度を持つことを洞察され、太陽ニュートリノの観測を目指して、装置の改良が行われた。その太陽ニュートリノが観測されるよりも前に、これも予期せぬことであったが、大マゼラン星雲での超新星爆発にともなうニュートリノがカミオカンデで観測され、ニュートリノ天文学のきっかけを作った。さらに、カミオカンデが陽子崩壊の探索を始めた頃に、邪魔物であった大気ニュートリノ（宇宙線が大気中で作り出すニュートリノ）は、後にスーパーカミオカンデによって、「ニュートリノが重さを持つ」という大発見を引き起こした。

実験研究を行っていくうえで、当初予想したこと以外の事で成果があがることほどおもしろいことはない。得てして、そのような成果には大発見が隠れていたりもするものである。大学法人化に伴い、研究者は中期目標・中期計画といった「縛り」をうける。その縛りが「予期せぬ新たな発見」の芽をつぐんでしまわないことを願いたい。自由な発想で実験がどんどんと展開していけるような体制を法人化後もとっていけるようにしてほしいと思う。また、スーパーカミオカンデのような規模の大きな実験を行うには、多くの大学や研究機関に属する研究者が有機的に結びつくことが重要であった。大学法人化後も、大学、研究機関間の共同利用研究が充実して進められるような体制を作っていくべきだと思う。そして、若い世代がこのような研究の中で育っていけるように、学生達が自由に研究に参加していけるような体制も作っていくべきである。

（宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設
中畑雅行）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

◇広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。
URL: http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

№ 1270　2003年9月10日
東京大学広報委員会
〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務課広報室　☎（3811）3393
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html